読書科学

第 9 巻 第 3 号（通巻　第 33 号）　　昭和 41 年 2 月 28 日 発 行（季刊）

教育を支える「よみ」の場としての図書館	清水　正男
重罪犯罪少年の読書療法による治療例	大神　貞男
最近の児童漫画と子ども（II）	阪本　一郎
高校生の人生観の確立と読書との関係	木村　典子
子どもは物語をどう受け取るか	渡辺　正己
集団読書指導の実践的考察	寺本　俊美
盲児の点字触読に関する発達的研究	佐藤　泰正

33

日本読書学会

◇本　号　目　次◇

原　著

教育を支える「よみ」の場としての図書館　信州大学　清　水　正　男　1
非行少年の読書療法による治療例　第3報告
福岡家庭裁判所小倉支部　大　神　貞　男　8
最近の児童漫画と子ども（Ⅱ）　日本女子大学　阪　本　一　郎　15
人生観の確立と読書との関係に関する調査　玉川大学　木　村　典　子　22
子どもは物語をどう受け取るか　秋田県高梨小学校　渡　辺　正　已　29
盲児の点字触読に関する発達的研究　東京教育大学　佐　藤　泰　正　39

実践記録

集団読書指導の実践的考察　大阪市野田小学校　寺　本　俊　美　33

資　料

谷口仙三郎　読書の影響ならびに人と社会に関する思考様相の分析
朝日新聞社　大学生と読書
全国学校図書館協議会　児童・生徒の読書の実態
出版科学研究所　週刊誌はどのように買われているか

会　報

日本読書学会会則（抄）

1. 本会は読書に関する科学的研究を志す者の連携協力によって日本における読書文化の発達ならびに読書指導の進歩を図ることを目的とする。
2. 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行なう。
   1) 会員の研究促進を目的とする大会の開催。
   2) 会員の共同研究を目的とする部会の開催。
   3) 会員の日常の研究，実践活動の情報の収集ならびにその紹介。
   4) 読書及びその指導に関する内外諸文献の調査並びにその紹介。
   5) 内外における関係諸団体との緊密な連絡。……下略。
3. 本会の正会員は本会の趣旨に賛同して会員となることを申し込み会費を納入したものとする。
4. 会員は本会が営むあらゆる事業に参加することができ，また本会の機関誌その他の出版物の無料または優先的配布をうけることができる。
5. 会費は当分の間年額800円とし，毎年3月末までに次年度の会費を納入すべきものとする。

教育を支える「よみ」の場としての図書館*

―― その発展をL Y L(6)を中心に ――

信州大学

清水正男**

Olsen がその著 School and Community(2) の中で指摘するように，学校が学究的学校 academic school から進歩的学校 progressive school さらに地域社会学校 community school へと発展するにつれ，教育方法の面でも顕著な発展が見られる。 Recitation から自学自習方式，さらに協働学習方式へと進む過程において，自律性・協働性などの育成の必要性が認識され，その指導が必要となるのである。そしてその指導のための教育的条件の整備が要求され，教具や図書に充分意を用いる必要性が生ずる筈である。しかし，この点について，わが国の教育は必ずしも敏感ではなかった。関口泰(3) の「学校は鈍才教育」では，秀才教育をラジオ・教育映画・講演会・博物館・図書館にまかせ，学校は鈍才教育専門で行くべし，図書館には優秀なスタフを置いて……と論ずるのは当時としては珍しい論である。教具や図書の使用から必然的に図書館の充実がはかられるべきであるが，原因の如何を問わず，わが国におけるこの方面の著るしい後進性は，おおうべくもない事実であった。しかしその中にあって明治から大正にかけての数十年にわたる欧米の影響と，わが国図書館界の専門家により内から打開しようとする努力とが，昭和期に入って漸くみのりかけようとしていた事情も，また否めない。昭和前期は戦争遂行という大事を完遂しようとする一面，よみの場の充実をもめざす地道な努力が，ようやく結実しようとしていた時代でもあり，終戦後そして今日のよみの研究に忘れられない影響を与えている重要な時期をここに見るのである。そして時を同じうして，この問題に取り組み，図書館は図書館の専門家に任せよと高く呼びかけながら，当時としては刮目すべき業績を残している青年図員聯盟(4) League of Young Librarians—L.Y.L—の活躍は，青年図員聯盟会報(5) L.Y.L Bulletin やその機関誌「図研究」(6) Toshokan kenkyu を利用する事により，ほぼ理解に達し得られる。従って昭和前期のよみの場としての "図" (7) の発展研究に，主としてL.Y.L の活動やその業績である図研究 および L.Y.L Bulletin を通じて，その当時の実情を詳細に見ようと思う。

米国においては，すでに明治30年代に，新渡辺稲造著「帰雁の声」(8)に紹介されるような南加州の田舎の小都市の民衆の生活の中にまで根をおろし，生きた "手の廻わる"(9)図が存在したこと，そしてそれからさらに三十余年の発展の後の事情を述べた加藤竜太郎(10)の「学生として見たるアメリカの大学図」(11)に見える "assignment sheet"(12)を持った学生が "assignmet shelf"(13) の図書を活用する事や，"図で図書を読みながら，書き抜きをつくり後日その書抜きさえ見れば，原物を見る必要がないように，ノートや書抜きをつくる訓練を中学時代以来ずっと受けている事",(14) さらに図使用から大学生活が開始されると説く(15) ほど図に力を入れている米国の図重視教育の事情や，御大典記念行事の図充実運動に際して出された大毎社説(16) の指摘に見える "欧米では図が

---

* Growth of library as the field of reading to support Japanese education.

** SHIMIZU, Masao.(Shinshū Univ.)

一般民衆の知的生活は勿論，物的生活の中においても大学に勝るとも劣らぬ教育機関として活躍している”(17)とするもの，ならびに間宮不二雄の紹介(18) する「アメリカ製図スローガン」(19)「新しい文献保存法は勘校活動フィルムの応用」(20)「フォトスタット複写機」(21)「New York 公立図の30年の進歩」(22)「パンフレットの整理と立体式容器の利用」(23)「Adventures of the book man」(24)「アメリカ公共図の種別とアメリカ公共図の標準予算」(25)「アメリカ公共図種別制定基準表」(26)「Carnegie図の結果体目録に於けるカード組込み規則」(27)「学校における図書及び図利用法教程—A.L.A 学校委員会報告1922」(28,29,30)「十進分類法の説明と導言」(31,32,33)「年代記号法」(34)「New York 州における図の過去一年」(35)「図界の偉人＝John Cotton Dana」(36)などの諸論文からわが国と比べて遙かに進んだ図の設備や，図資料機能，図教育の実際など詳細にわたりうかがえる。

わが国教育の当時の状況は，これに比較して大いに異るものがあった。“現状は混沌として……迷路を形成し……国民生活と交渉甚だ薄く，両者の間には大きな溝がある”(37)とする大毎社説(38) や“教師の説をノートし，与えられた教科書の通読に追われて，ろくに図を利用せぬ学生，また晏如として図利用を図らせぬ図関係者の存在するうれうべき現象”(39)を説く「図に対する世人の期待」(40)や“教壇教育—教科書の棒暗記を教育の全体と心得，之れを実行しつつある今日の学校”(41)とする間宮不二雄(42)の「学校における図書及び図利用法教程(43,44,45)さらに新渡辺稲造の“表題の文字一つ違っていても借用証を突返され……著者表題を判明に記さざる限り……貸出無用”(46)とする「帰雁の声」(47)“図を完全な教育機関とするには現今の状態では到底満足が出来ないので閲覧者を指導教養せしむる係員を別に置かなければならないと思う”(48)とする中島猶次郎の「図は果たして数育機関なりや」(49)や，“傍線を引いたり書き入れをしたり，まして頁を切り取ったりする様な事は書物を読んで書抜きを作る技術の訓練が足りない人々の間にのみ起る現象で，これを道徳の問題のみ上らせて学生を不徳漢視する事は，ある意味では誤りである”(50)とする加藤竜太郎の「学生として見たるアメリカの大学図」(51)等々，わが国の図における後進性を，それの背後にある教育，教育方法の特異性を具現しながら説いて余すところがない。図が民衆の知的生活は勿論物的生活にまで密着している欧米のそれとは，余りにも隔たりがあり過ぎると判断される。以上の諸例に明らかな如く，図を図教育の場とするという，図の持っている指導機能は勿論果されず，図の持つ奉仕機能でも，資料の蒐集，保存が関の山で，利用面まで充分意を用いるまでには至っていない実情を充分察知し得られる。読書の場も，読書現象の準備自体からまだ未完というところにあった事が知られる。

さて，奉仕機能を1とし，資料の整理を1a (collect 1a, keep $1a_2$)，use を 1b とし，指導機能を2とすれば，わが国では当時 1a ($1a_1$, $1a_2$) が先行し，1b には困難が伴い，効率の高い use は未だしの感がある。況んや，指導機能の2など思いもよらぬものであった。

米国では 1a については，すでに A.L.A が組織される頃，1b の use に踏切って居るとされる事情から，わが国と比較して非常に大きな時間的距たりを見る。わが国では明治初年以来 1a の確立に専念せざるを得なかった結果相当研究を積み乍らまだ整理に客観性を欠き，大毎に図書館の現状を“図書の死蔵”(52)と嘲笑され，当時のよみの場は正視出来ないほどの表現で紹介され(53)，また帰雁の声も“表題の文字一つ違っても借用証をつき返される図”(54)と，当時の図書館の紹介をしている。これは collect と keep に急な余り，この結果を招いたと見てよい。この様な事情の下にありながら彼我の間に数十年の差をつけ遅れをとりながら，図書館資料整理の三大トゥール完成への嶮しい道を辿った。そしてこれらはまことに幸にも昭和前半期の青年図員聯盟の手による日本十進分類法NDC，日本目録規則NCR，日本件名標目表NSHなど三大 tool 完成によって果され，そして此等が今日に至るまで，わが国図界の重要な tool としてなお存在するようなすばらしい仕事として果された事を熟知すべきである。そしてこの三大 tool の形成過程

はとりもなおさず，わが国の図教育の発展と直接関連性あるものと考えられる。したがって三大 tool 完成への道は，同時に我国のよみの場の発展研究の重要な一こまとなるのである。

tool 完成の第一は Nippon Decimal Classification 日本十進分類法N.D.Cである。分類では E.C.Richardson の Classification—1876—1926. Library Journal vol 51, No 21. (p.170—172)(55)を鈴木賢祐が，Richardson の Classification, Theoretical and Practical を加藤宗厚(56)が，Alfred kaiming chiu の classification in china. Library Journal, 52：409—417(57) を鈴木賢祐が，Sayers, W.C.Berwick：A manual of Classification for librarians and bibliographers, 1926(58,59) の第三部を鈴木賢祐が，James Duff Brown：Library Classification and Cataloging, 1912 Ch VI(60) を鈴木賢祐が，Henry Bartlett Van Hoesen：The Twelfth Edition of the Dewey Decimal Classication, Library Journal, 53：1027—1030 Dec. 1928(61)を鈴木賢祐が，The Expansive Classification By Charles Ammi Cutter(62)を鈴木賢祐が，Margaret Mann：Introduction to Cataloging and the classification of books Ch IX (63)を山口三郎が，C. D. U. Classification décimal universelle (64) を武田虎之助，Borden, William Alanson, Outlines of the scheme of classification：A plan founded on the Decimal classification and to be used in correction with it. Library Journal Vol 53：127—128. Feb 1. 1928(65) を鈴木賢祐が，等の紹介があり，それらの影響を受けた館界にあって，主題配列を E.C. に，記号法を Dewey の D.C にとった Nippon Decimal Classification N.D.C が森清によって持たれた。森清自身も説明する(66) ように，助記性を有し，しかも索引を備える点に特色を持ったが，当時世界の図界を風靡していた Dewey の D.C 分類法側からのドーカスフェロー女史による抗議(67) にもかかわらず L.Y.Lはあえてこれに反論(68) (鈴木賢祐による) し，N.D.C を採るに至り，ここに D.D.C から完全に独立して N.D.C が持たれる様になった。多田光の「光慶図分類法の変更により NDC の批判に及ぶ」(69)や，横川四十八の「森清君に呈す」(70)，村上清造の「富山県における NDC 図の造成」(71)はこれを物語る。客観的分類は NDC の完成により，よみの場における図資料の客観的位置づけが可能になり，資料検索のための能率性，従って資料利用の能率の向上は大書してよい。よみの場の環境構成のイロハが出来たと言っても過言でない。

目録法は Mann Margaret：Introduction to Cataloging and the classification of books. Ch IX(72) を山口三郎が，Mary Wilson MacNair：Guide to the cataloging of periodicals. Wash., 1925. 3 ed. Library of Cangress(73,74)を坂田実が，E.C. Richardson：Fundamental Principles of cataloging (A. L. A Bulletin, 6：234—237. 1912)(75) を渋谷国忠が James Duff Brown：Sayers の "Manual of classification" 付ろく1を鈴木賢祐(76)，Julia Pettee：The development of authorship, entry and the fomulation of authorship rules as found in the Anglo American Code. Library quarterly. 6：270—280 July, 1936(77) を鈴木賢祐，「A.L.A 目録規則の改正」を鈴木賢祐(78)，Catalog rules：Author and title entries：Complied by Committees of the American library association and (British) Library association. 1908(79,80) を天野敬太郎が，などが紹介され，さらに天野敬太郎の「我が国に於ける目録法の研究—その沿革と業績」(81)，加藤宗厚の「帝国図沿革・目録及分類概説」(82)「著者主記入再論」(83)さらに N.C.R 研究の中心的存在となった堀内貞子の「日本図書目録法研究」(84)「日本図書目録法研究続篇」(85)「日本図書目録法案」(86)などが出され，佐治繁一「本邦著者名雑攷」(87)「本邦著者名雑攷附録本邦著者別名概覧」(88)，飯田英次の「本邦著者目録の実現に対する一解決案」(89) 等が見られる中にあって，日本図書目録規則 N.C.R が，青年図員聯盟目録法制定委員会の努力をはじめ，多くの L.Y.L 会員の協力により「青年図員聯盟，図書目録法制定委員会日本図書目録法案」(90)

として完成されて行った。その経過は「永年の懸案＝目録規則＝遂に完成す」(91)によって詳細に知られる。日本図書館協会理事長土岐善麿がN.C.Rの中で称讃する(92)ような偉業が成り，よみの場における学習主体の資料検索における大きな便宜が出来，しかも和漢洋の単一目録が可能となったのであった。

第三のN.S.H件名標目の完成は次の様にしてなった。加藤宗厚の「和漢図書件名標目序説」(93)「和漢図書件名標目」(94)「和漢図書件名標目Ⅱ」(95)「和漢図書件名標目Ⅲ」(96)「和漢図書件名標目後記」(97)などが昭和4年につぎつぎに発表された。そして神波武夫の「加藤氏案和漢図書件名標目に対する追加要望その他」(98)を経て，加藤宗厚の日本件名標目表が間宮商店から昭和5年出版され(99)，これが審議の対象となり，L.Y.Lのバックアップによる研究がなされ，やがてL.Y.Lの件名標目研究会につづいて昭和12年からL.Y.L件名標目委員会の手によって研究が継続されて，「L.Y.L件名標目委員会日本件名標目表改訂案(1)」(100)および「同　改訂案(2)」(101)が遂に出た。そして昭和19年青年図員聯盟標目委員会編「日本件名標目表＝略称＝N. S. H」が間宮商店から刊行された。件名標目表の完成により辞書体目録も可能になって来たのであるが，この事は，図書館利用者にとって非常な福音であり，よみの場の環境構成にとって偉大な結果を齎したものと見てよいのである。

かくして三大 tool のすべてが青年図員聯盟の手により完成し，よみの場の環境構成がいよいよ深められた。

1a の状況に対して，1b の use への努力は勿論なされたが，努力の量に比して困難な諸事情が伴ったため報われるところ少い実情で“現代社会に活動している所謂中心人物に……図が一向に……好感を以て迎えられざるは如何なる理由であろうか……卒直に披瀝するならば，今をときめく過去の図書館利用者が，その利用当時に受けた印象が好ましくなく，……不愉快な想出に係員のブッチョ面：手垢だらけの不潔本，すり減された目録ごみごみした閲覧室等々……どれ一つとして愉快な想出のような物は見当らない”(102)ものであり，また，“大抵の館則は図書を見せようとするのではなく，なるべく見せまいとする規則が多い……消極的な規則はどしどし廃棄処分に付してごらん，残る規則は恐らく只の一条もないであろう。そうなった暁にこそ甫めて閲覧人は殺到する筈だ”(103)など「図が世間的人気なき原因」(104)に論ぜられている。当時の図の現状を物語るものである。昭和9年の例の颱風に際して“古老の言”にたよる科学者に対し「古老の言VS記録」(105)の論に応ずるかのように「科学も図から」(106)は大毎社会面に発表された神戸海洋気象台の図記録にたよる研究によって成功した例を挙げて図書館利用の効用を説き，長田富作の「発明と図」(107) XYZ生の「科学動員」(108) XYZ 生の「戦捷も読書から」(109)や，吉野龍二の「私の参考事務ノート」(110)(“参考事務の完備による館界の活動発展をねらう”)(111)などは此等の効用を論じているものである。図を民衆の前に実質的に機能的に移動させて図書の利用を図ってもらおうとする新しい方式も生れた。楠田五郎太(112)の「動く図の研究」(113)はこれで大正11年以来苦心の経営になる活動として，岡山婦人読書会経営の実際を紹介し，「国民皆読運動の展開」(114)で竹林熊彦は“4.閲覧より利用へ”(115)“5.総てのものに図書を”(116)“6.一切の障碍を撤廃せよ”(117)などを論じさらに“8.図人の心構え”(118)で“図は受験生を以て充満している……お守りしている図の人間は実に悲惨な生活である……個人的私欲的な考えでは読書に対する喜びを感じ得ない。……かかる無感覚なる読書人？　を読書それ自体を目標とする……へ転向せしめることこそ国民皆読運動の第一線に立つ図人の勤労作業であるべきである……”(119)とするのは特に注目される。図利用者の利用の質的考察が重要であり可能であって，ここから，ようやく新しい図利用の胎動が感ぜられるのである。これらの営みのために，は，図の責任者に人を得る事，学校教育の質的発展（図側からすれば学校教育が，従来にまして一層図の活用する自律的学習の場となるよう発展する事），図経費の増額等が望まれた。人的構成については，当時の図長について，A.L.Aで“There is nothing more expensive

for a library than a cheep librarian" (120) とする如く，すぐれた人的構成をねらっていたのに対し，わが国では，既に第一義的生活を終了し，第二義生活の場として図を選ぶ人が多く，図生えぬきのエキスパートの昇任が得られず(121)人心蕃靡し生気を失うと「図首脳は第二義的生活者に非ざるか」(122)で述べ，また L.Y.L の綱領(123)でも "図員の教養の向上" をうたっている点や，また青年図員聯盟結成それ自体についての経過が連盟宣言(124)によって知りえられる。

学校教育の質的発展は，既述の「図に対する世人の期待」(125)に於て対学生新教育を暗示し，また加藤竜太郎の「学生として見たアメリカの大学図」(126) にのべる "私共は稍もすれば書物を私蔵しないと安心出来ないという根性がある……書物というものは私有するものでなく出来る丈け広く一般に読まれ利用されるべき性質のもの……何より先づ彼等に読書の技術を訓練する事の方が近道であるかもしれぬ"(127) は，読書現象のあり方を指導すべしとする一即ち指導機関的機能の充実を説くものである。そしてそれらはまさに学校教育の質的発展を物語るものでもある。

2 の指導機能について見れば，奉仕機能の完成を待たずして指導機能の充足は困難であり，図は竹林熊彦の言を以てすれば「国民皆読運動の展開中」(128)の "読書のよろこびを感ずる事の出来ない一立身出世をめざす……私欲的な……受験生"(129) を以て充満している……しかも "古手の官僚や学校教師の隠居仕事の場になっている"(130) 図に対して，私用の質的遅滞性の指摘や，利用の質的向上による打開を図ろうとする指導機能への積極策も認められる。 A.L.A の Courses on the Use of Books and Libraries. By A. L. A Education Committee. 1922(131、132、133) の紹介で間宮不二雄の，小学校—「小学校に於ける図書愛好精神の涵養と図書利用法指導の本質」(134)，中学校—「中等学校に於ける図書及び図書利用指導に対する最少限度の教程」(135)，高等教育—「師範大学及師範学校に対する図利用法研究教程」(136)に関するもの等が述べられ，さらに幼少年対象の「Adventures of the Book Man : The sad story of a Library Book. Carnegie Library of Pittsburgh, 1931」(137)の具体的にして平易な紹介もあり，当時の教育界に新風を与えるものであった。「学校における図書及図利用教程 ALA 学校委員会報告1922」(138)の "訳者のマエガキ"(139) に於て間宮不二雄は "教育に従事する人々の頭も亦，従来の因習的メソッドから離脱して真に新らしき方法によって目的の達成に努力しなければなるまい"(140) として "学校教育期間中に自学自習の慣習を養わしむる方法の取り入れ"(141)を提案する立場を述べ，基礎案の立案をせんとしても我国には適例が見当らぬし，また立案する人的要素も求め難い……"将来我国に適合する案を育む酵母の役にも立つことと考え……" (142) と立場を明らかにし，実際経験家の "諸論文の発表を希望"(143) している。

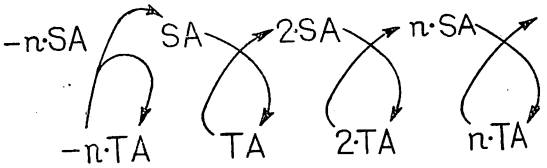
中島猶次郎の「図は果たして教育機関なりや」(144)に見られる，"指導係とか案内係を置かずに只カード目録なり印刷目録によって図書検索をし，自由に読書せしめる事で現代的図を任じ，団員の第一の職務は総ての図書に最大限の利用率を与えるというが如きで，学校以上の唯一の教育機関と思っていては，その館の価値を半分以上も失って居ると云っても過言でないと思う"(145) "図を完全な教育機関とするには……閲らん者を指導教養せしむる係員を別に置かねばならぬ"(146) としているすぐれた卓見は間宮不二雄の論ずるところを裏書している。

加藤竜太郎の「学生として見たるアメリカの大学図」(147) では "assignment sheet" (148) や "assignment shelf"(149)。書庫の中に特別用意される "Carrell"(150) さらに "inter-library loan system"(151) の制度に至るまで詳細に紹介され，"図は大学の「附属」物ではなくて，極端に云えば，図に講義の方が附属している観さえ"(152)あり，"「終日図，時々教室」(153) という，日本……とは正反対の学生生活" を紹介している。そしてそれは，学生の書物に対する観念，学習方法の差違などによく表現され，図教育の方向性が如何なるものか充分に暗示されている。

図の教育は，公立図が社会教育に対し，学校図が学校教育に対して保存する図専有の機能を直視し，図の教育的位置の確認が必要であり，確認された座標の上にのみ，はじめて図による図教育が成立する。その意味において，指導機能を支えるものは現代教育であり，また現代教育を進めて行く上に抵抗となりかねないのも，また図である。かくして "Reading center にして Information center であり"(154)，教育的に位置づけられたよみの場としての図が必要となるのである。

1a は 1b に力を与え，それは 2 にモチーフを与え，1a→1b→2 が成立する。しかも 2 の活動により，1a, 1b が高められた姿 2・1a，2・1b として必要となる。例えば，より能率的に学習するため Information を図書から得る丈けでなく，より一層速かに Information を受け得る資料の必要性が感ぜられる。そのため，雑誌・パンフレット・新聞・クリッピング……等々，すなわち図書以外の資料 Non Book Materials が必要となり，それをも含めた利用が図られ，そのための指導機能も持たれる。すなわち，2・1a→2・1b→2・2 が成立する。1a, 1b, 2 の関係を溯及して，−1・1a→−1・1b→−1・2，さらに遠くさかのぼって，−n・1a→−n・1b→−n・2 を得る。一方，2・1a→2・1b→2・2 につづく，3・1a→3・1b→3・2……n・1a→n・1b→n・2 を併せると，−n・1a→−n・1b→−n・2…→−2・1a→−2・1b→−2・2…→1a→1b→2→2・1a→2・1b→2・2…→n・1a→n・1b→n・2 が得られる。これに，Service Agency S.A. および Teaching Agency T.A を代入すれば，

(−n・SA→−nTA)→SA→TA)→(2・SA→2・TA)…→(n・SA→nTA) すなわち



となり，ここに SA，TA の円環的に相互連関し合いながら高められる場としての図が考えられるのである。

昭和前期（終戦まで）は，わが国の図史にとり正に重視さるべき時代であり，S.A の (1a→1b) が一応完成し，やがて (→2) の方向性の具現を見ようとした時代で，青年図員聯盟 L.Y.L はその方向づけとしての tool の完成に功労があり，L.Y.L の機関誌「図研究」と「L.Y.L Bulletin」はそれを裏づけるものである。

読書の場の読書の読みは，前述の様に発展するよみであり，読書の書は，Book material から Non Book Materials へと拡大して行く "広義の書"—Information media—である。かくして図は Book material Library から Non Book Materials をも併存管理する図へ，やがて Non Book Materials, Book Material 独立した両部門として互に協力する図，やがて Integrate された図へと発展する。それにつれて読書の場も変り，市民・学生・生徒の読みを喜び楽しむ場へと発展する。これには，そのような能力開発育成の指導が必要で，これも図の重要な使命と見てよい。この指導を含めて，人間形成の場をつくる事が必要である。

間宮不二雄・中島猶太郎・大毎などの指摘するように当時それは容易に望めないものではあった。しかし，それは，今日の如き図教育が，まさに開花しようとするための，厳しい準備期・思索期，いわば冬眠の時期ともたとえられるところの時期でもあったと見てよい。

註

(1) Leagu of Young Librarians 青年図員聯盟
(2) F.G.Olsen and others: School and Community. N.Y. Prentice Hall. pp5—11
(3) 岩波書店「教育」昭和9年新年号
(4) 昭和2年11月結成宣言，昭和19年解散，詳細は L.Y.L Bulletin.
(5) 間宮不二雄：青年図員聯盟会報昭35学術文献普及会
(6) 昭和3年より昭和18年まで季刊全61号.16巻
(7) 青年図員聯盟：図研究「図という字について」Vol 1.87p
(8) 同，Vol 11，pp307—309. (9) 同，Vol 11，p308
(10) 昭和3年同志者大学英文科卒 S 12—16 米国ミシガン大学留学（同志社大女子専門教授・同大学講師）(11) 青年図員聯盟：図研究，Vol 15，pp181—186，(12) 同，Vol 15，p182，(13) 同，Vol 15，p182，(14) 同，Vol 15，p185.
(15) 同，Vol 15，p182，(16) S3 11月1日 大阪毎日社説，「御大典と図書館文部省に望む」L.Y.L図研究，Vol 1，pp569—570，(17) 青年図員聯盟：図研究，Vol 1，p569.

(18) 同, Vol 7, pp113—116, (19) 同, Vol 7, pp362—363, (20) 同, Vol 8, pp369—370, (21) 同, Vol 1, pp552—562, (22) 同, Vol 13, pp237—242, (23) 同, Vol 1, pp428—453, (24) 同, Vol 12, pp165—168, (25) 同, Vol 3, pp409—415 (26) 同, Vol 3, pp413—415
(27) 同, Vol 8, pp203—204, (28) 同, Vol 12, pp17—29
(29) 同, Vol 12, pp151—163, (30) 同, Vol 12, pp 485—498, (31) 同, Vol 3, pp209—243, (32) 同, Vol 3, pp353—384, (33) 同, Vol 3, pp531—552, (34) 同, Vol 3, pp544—547, (35) 同, Vol 1, pp237—238
(36) 同, Vol 2, pp639—644, (37) 同, Vol 1, p569
(38) 同, Vol 1, p569, (39) 同, Vol 1, p568
(40) 同, Vol 1, p568, (41) 同, Vol 12, p18
(42) L.Y.L書記長, 間宮商店主, 複刊図研究, LYL Bulletin
(43) 青年図員聯盟：図研究, Vol 12, pp17—29
(44) 同, Vol 12, pp151—163, (45) 同, Vol 12, pp485—498, (46) 同, Vol 11, p308, (47) 同, Vol 11, pp307—309, (48) 同, Vol 8, p14, (49) 同, Vol 8, pp9—14
(50) 同, Vol 15, pp185—186, (51) 同, Vol 15 pp181—
(52) 大毎社説, S3. 11. 1, LYL 図研究 Vol 1—p569
(53) 青年図員聯盟：図研究, Vol 11, pp307—309
(54) 同, Vol 11, p308
(55) 同, Vol 1,「分類の過去五十年」pp64—69
(56) 同, Vol 1,「分類法の理論及実際」pp14—63
(57) 同, Vol 1,「支那における分類法」pp162—180
(58) 同, Vol 2,「分類の実際作業上」pp545—617
(59) 同, Vol 3,「下」pp43—81
(60) 同, Vol 3,「分類と目録作製」Sayers の "manual of classification" 付録 1, pp466—471
(61) 同, Vol 2,「D.C.第十二版」pp618—628
(62) 同, Vol 4,「展開分類法説明」pp511—526
(63) 同, Vol 5,「図書目録編纂及図書分類概論」pp251—273
(64) 同, Vol 7,「C.D.U.概説」pp127—163
(65) 同, Vol 1,「東洋及びその他の図に適用すべき分類表の梗概」pp181—184 (66) 同, Vol 1, p122
(67) 同, Vol 1,「A protest against deviced D.C. System. Dorkas Fellows editor of "The Decimal Classification."」pp548—551
(68) 同, Vol 2,「日本十進分類法の立場, Dorkas Fellows 女史の「改変十進分類法に対する抗議について」pp263—273
(69) 同, Vol 6, pp517—523, (70) 同, Vol 13, pp440—441, (71) 同, Vol 15, pp75—80
(72) 同, Vol 5,「図書目録編纂及図書分類概論」pp251—273
(73) 同, Vol 5,「米国議院図の雑誌目録作製についての手引—」pp93—105, (74) 同, Vol 5,「同(2)」pp225—287
(75) 同, Vol 5,「目録法の根本原理」pp176—180
(76) 同, Vol 3,「分類と目録作製」pp466—471
(77) 同, Vol 13,「著者記入法発展史論」pp1—23
(78) 同, Vol 7, pp165—195
(79) 同, Vol 10,「A.L.A 目録規則 (1908)(1)」pp225—261
(80) 同, Vol 10,「同(2)」pp371—399
(81) 同, Vol 12, pp407—483 (82) 同, Vol 1, pp277—349
(83) 同, Vol 7, pp63—80 (84) 同, Vol 5, pp319—359
(85) 同, Vol 6, pp475—502 (86) 同, Vol 6, pp1—35
(87) 同, Vol 4, pp29—40 (88) 同, Vol 4, pp41—48
(89) 同, Vol 4, pp495—510 (90) 同, Vol 12, pp221—276 (91) 同, Vol 9, pp235—236
(92) 日本図書館協会目録委員会編：日本目録規則, 1952
(93) 青年図員聯盟：図研究, Vol 2, pp9—61
(94) Vol 2, pp62—99 (95) Vol 2, pp295—332
(96) Vol 2, pp355—386 (97) Vol 2, pp387—408
(98) Vol 3, pp109—114
(99) 加藤宗厚編：日本件名標目表, 大阪間宮商店昭5.(8)
(100) 青年図員聯盟：図研究, Vol 10, pp507—546
(101) 同, Vol 11, pp85—121 (102) 同, Vol 9, p248
(103) 同, Vol 9, p249, (104) 同, Vol 9, pp248—249
(105) 同, Vol 7, p512, (106) 同, Vol 12, p203
(107) 同, Vol 14, pp51—57 (108) 同, Vol 13, pp291—295 (109) 同, Vol 13, p69, (110) 同, Vol 12, pp7—15
(111) 同, Vol 12, p7, (112) 同, Vol 7,「動く図の研究(上)」pp275—288, (113) 同, Vol 8,「同(下)」pp39—54
(114) 同, Vol 13, pp419—428 (115) 同, Vol 13, pp421—423, (116) 同, Vol 13, pp423—424 (116) 同, Vol 13 pp423—424, (117) 同, Vol 13, pp424—425 (118) 同, Vol 13, pp427—428, (119) 同, Vol 13, p428
(120) 同, Vol 1.「Cheap Librarian is most expensive」p427
(121) 同, Vol 9, p249, (122) 同, Vol 9, pp249—250
(123) 同, Vol 16, p2, (124) 同 Vol 16, p2
(125) 同, Vol 1, p568, (126) 同, Vol 15, pp181—186
(127) 同, Vol 15, p185 (128) 同, Vol 13, pp419—428
(129) 同, Vol 13, p428, (130) 同, Vol 13, p428
(131) 同, Vol 12, pp17—29, (132) 同, Vol 12, pp151—163, (133) 同, Vol 12, pp485—498, (134) 同, Vol 12, pp25—29, (135) 同, Vol 12, pp151—163, (136) 同, Vol 12, pp485—498, (137) 同, Vol 12, pp165—168
(138) 同, Vol 12, p29, (139) 同, Vol 12, pp17—23
(140) 同, Vol 12, p17, (141) 同, Vol 12, p17
(142) 同, Vol 12, p20, (143) 同, Vol 12, p23
(144) 同, Vol 8, pp9—14, (145) 同, Vol 8, p14
(146) 同, Vol 8, p14, (147) 同, Vol 15, pp181—186
(148) 同, Vol 15, p182, (149) 同, Vol 15, p182
(150) 同, Vol 15, p184, (151) 同, Vol 15, p184
(152) 同, Vol 15, p182, (153) 同, Vol 15, p183
(154) Lucile F. Fargo: The Library in the school, Chicago 1947. A.L.A pp31—82

非行少年の読書療法による治療例*

第3報告：重罪犯罪少年S.F.の場合

福岡家庭裁判所小倉支部

大神貞男**

1 まえがき

本報告も引続き犯罪少年の読書療法による治療例の症例研究であるが，本報告での問題点は，

(1) 本症例報告は強姦・恐喝及び窃盗等の重罪犯罪少年に読書療法を実施しその治療効果を検討せんとしたものである。

(2) 治療技法として我々は前報告において解釈投与(Giving Interpretation) の技法を提言したが，本報告において自己解釈技法及びこれに準ずるような治療的質疑を導入し，洞察を深めることに役立てた。

(3) また治療機制について我々はY—Gテスト結果による治療過程の検討に着手したが，本報告において我々は更にこの問題を一般的に解明することにした。

(4) 更に本報告においては Rorschach 法によって人格の治療的変化を明らかにせんとした。

およそ以上の点が本報告において解明せんとしたものであるが，一般的な診断及び治療理論は，阪本先生の指導で「読書療法とその適用例」なる論文を最高裁の家庭裁判月報に発表したのでそれに譲ることにする。

2 Case

(1) Communication

a 少年 S.F.（♂）18.2才 高校生

b 非行歴

S40年1月27日 窃盗にて不処分

S40年7月15日 交通違反不開始

c 本件非行

S40年8月27日A市神社においてK女（21才）を2名にて口にタオルを押込み強姦。

S40年5月2日A市神社においてM女（16才）を4名にて強姦。

S40年5月8日A市においてS女（16才）に短刀を突きつけ6名にて強姦。

S39年6月単独にて某高校生より現金300円を喝取。

その他，西瓜・葡萄・現金・清酒などの窃取7件。

d 家庭環境

父（42才）小卒 会社員。家庭内において愛情表現乏しくかつ短気で母や少年にロやかましく少年は父に反感を抱いている。また父母間に感情的場面があり一般に家庭内の愛情関係は不安定である。

母（40才）小卒 農業（田7反畑2反山林若干）肥満型。少年には愛情的であり少年も母には親密感を抱いている。

弟1人（16才高校生）妹1人（14才中学生）弟とは幼時喧嘩をして鋏を投げつけられ右眼に突き刺って失明したので兄弟間の感情状態は複雑である。経済的には一応安定した中流農家に属すると思われるが家庭内の人間的愛情関係は微妙である。

e 生活史 S22年7月20日出生。発育順調なるも上記

---

* A study of bibliotherapy on the delinquent. (3rd report) A case of felony boy, S.F.

** OOKAMI, Sadao. (Fukuoka Court of Family Affairs)

の如く5才のとき右眼を失明した。S38年小学校入学。翌31年に少年のみ祖父母の下に預けられ中学校を卒業するまで両親と別居生活。高校進学と共に両親の下に引取られることになった。中学校時代は出席良好，学業成績中上位，不適応行動なく平穏に行動。S38年県立Y高校に入学し父母の下で生活するようになり，高校進学後非行行動が続発するようになる。高校一年の頃より交友関係が乱れ，下校時飲食店に立寄り喫煙・買食・途中怠学等多く，学習意欲低下し，粗暴行動多く，謹慎1ヶ月を受く。2年の頃友人と共に万引し，高校中退し，私立X高校に転入学。続いて本件非行となり高校中退。

f　心理テスト結果

(1)　知能　田中B1　IQ＝120

(2)　Y—G　DCINOCoAgGRTAS

3 4 4 3 4 1 5 2 3 3 4 5

(3)　Rorschach　修正BRS　−23（不適応段階）

R＝20（P＝4，H＝3，A＝8，W＝2，D＝13，Dd＝4，S＝1，M＝1.5，FM＝6，k＝2，F＝3，Fc＝4.5，C'＝3.5）

・好きな Card Ⅶ（母親カード）

・嫌いな Card Ⅳ（父親カード）

(2)　**Interpretation**

a　家庭の愛情欲求阻止

b　身体的欠陥に基因する劣等感

c　以上を心因とする青年期の代償的性的非行行動

(3)　**Insjght**

(1)概況　治療期間（S40年10月7日—S40年12月18日70日間）　(2)面接回数　11回　(3)治療的読物（家庭愛に関するもの　「にんじん」，「仔鹿物語」，「家なき子」，「夜あけ朝あけ」：身体的欠陥に関するもの　「ヘレンケラー」，「野口英世」：性的適応に関するもの，「狭き門」）　(4)面接　Appointment System（毎週土曜）　母子同伴出頭。

3　治療経過

第1回面接（10月7日）　母の話……どうにかこうにか家に居る程度で，友人の所や映画に行きたがって，まだ気持が安定していない。少年の話……父はあまり喧しいという方ではないが話も一寸する程度で，物足りない感じ。母は優しいが，家を出てもいいことはないといって止めるが，自分は今まで悪事を重ねて来たので，この土地がイヤになった。友人などと会っても厭な思いをする。博多にでも出て自動車学校にでも行きたいと思っている。「にんじん」を貸与。

第2回面接（10月14日）　母の話……家に帰った当座は周りに馴染まず困ったが，この頃は大分周りの人とも馴れてきた。家庭でも打解けてきて家の仕事も手伝ってくれる。外に遊びにも出なくなった。本は毎日読んでいる。少年曰く……母とは何事も話しをするし父とも少し位は話す。家庭も明るくなってきて，そんなに厭でもなくなった。「にんじん」は水曜日までに読了した。

感想文……「僕はこの本を読んでにんじんの本当の生活が分る様な気がします。にんじんは家庭では母から色々いやな事をいいつけられ，いう事を聞かないと叱られると思って母のいう事を聞いている様だが，母も母で一番下のにんじんをそんなに用事をいいつけなくとも兄のフェリックスにいいつけたらよいと思います。そんな事でにんじんも考える事が変り母のいう事なら何でも聞き母の機嫌をうかがい何時もビクビクして暮らさなければならないのでにんじん自身の口から母に何故いやな事だけは自分にさせるのか聞いて見るとよいと思います。それに狩りの獲物の後始末もそうであるが兄のフェリックスは獲物の量を石盤に書きつける役でにんじんは手傷を受けまだ生きているものを殺す役である。にんじんもそんな役は嫌だというのに無理矢理に母から押しつけられ殺させられている。そして後で情しらずとか御前はこんな事をして楽しんでいるとか色々いう。こんな事ではにんじんも母を愛さないのが本当である。最後ににんじんも母のいう事を聞かず反抗したが僕はあれでよいと思う。あんな時でも母は誰でもにんじんを叱る処を見せようと家の者皆な呼んで騒いだりして本当に思いやりのない母と誰れでも考えると思う。でもこういう事は母一人の責任ではないと思う。一番悪いのは父でしよう。父は母がそんな酷い事をしているのを知ってい

ながらにんじんに自由にこの家から離れて行ける様に成人になるまでこの一家の中にあっての幸福を諦めろといっているが如何にも残酷その物であると思う。」

話し合い……冷たい母だ。余りにんじんを可愛がらない。ただいやな事ばかり並べる。上の兄弟だけ大変可愛がって嫌いだ。父はにんじんを母がイヂメているのを黙って聞いている。冷たい感じだ。兄弟は姉の方が優しい。兄はにんじんに厭がらせをしたりするが心の中ではにんじんを可愛がっている。思いやりがあってよい。にんじんは母に無理を言われて黙って聞いている。母の機嫌だけうかがって生きている。劣等感をもっている。あまり良くないと思う。もっと母のそんな態度を父に相談してそんな事のないように兄弟一緒に差別ないように生活したらよい。最後には母に反感をもって父と散歩に行った。家を出て独立して生活して行くと告げたが，父は成人になるまで待ってこの家で生活して行けと言った。にんじんは父の言う事を聞いて家に残った。母は自分を愛してくれない。にんじんは父を愛していた。父から言われてにんじんが家出をしなかった事はりっぱだと思う。まだ成人になっていないので社会が，よく分らないのだから。

第3回面接（10月21日，家庭訪問）家庭は白壁門構え電化製品も充実し中流農家の生活，近隣は山峡に数戸の農家が実在する閑静な純農村地帯。

「仔鹿物語」感想文……僕はこの仔鹿物語を読んで本当に素晴らしいと思いました。それは主人公のジョディ少年一家の楽しいこと苦しいことを詳しく書いてあるからです。ジョディ少年は一人ぼっちで友達がなく，……とても淋しく暮らしていましたが，……鹿の子供を父に許しを得て飼いましたが……大きくなるにつれて段々悪い事をするようになった。でもジョディ少年は鹿は悪い事を知ってするのではないと思っていました。最後に父から鹿を殺すように言われた時の気持は僕にも分るような気がします。……ジョディ少年は鹿の止めを刺し，そして父母がだましたと思い一人で家を出て小母さんの居るボストンに行こうと考えたが淋しさがヒシヒシと身にしみやはり本当の友人は父しかいないと分り一生懸命に家に帰えって行った。最後には本当に僕もジョディ少年になった様で悲しくなりました。」

話し会い……父はとってもよく働く明るい父である。母は少年を叱るが心の中ではよく思っているが父の方がよい。いつも一緒に仕事をしたり，話しをするからである。少年は友人がなくて，父としか話しができないので可愛想だ。遊び仲間がないので仔鹿と遊んだ。……この物語を読んで全般的に素晴らしいと思ったのは一家は大変貧しいけれども一生懸命働いて生きて行こうと頑張って居る。そして父も町で嘘をついたりするのが嫌いで森の中で父子で自然を友として仲良く暮らしている。結局一家が愛しあって苦るしい事にも堪えて行った事である。仔鹿は殺さずに遠くにやればよかったと思った。

第4回面接（10月27日）母の話……10月26日N市の職安に少年が一人で行って，自動車工場に仕事を見つけて来た。雇主には本人の今までの事情を打ちあけて指導を依頼して来た。

「ヘレンケラー」の感想文……三重の不幸をもったヘレンは……サリバン先生が来て口でものを言ったり読む事を教えるようになってから，以前はわがままであったが他人に迷惑をかけてはいけないという事が分るようになった。それから……色々苦しい事も悲しい事もあったがそれにも負けず頑張ってハーヴァト大学に入学した。本当にサリバン先生がヘレンを愛していたからはいれたと思います。大学を卒業してから世の中の不幸をもった人達のためにヘレンがどんなに努力したかは目に見えるようです。」

質疑「ヘレンと君自身とを比較してみてどういう風に感じましたか？」答……ヘレンは三重の不幸を背負って生きて行ったから，僕もりっぱに生きて行く。彼女が幼時母や父に当ったりしていたがこれは目が悪いからちよっと気に入らぬ事があると文句を云って困らせていた。

質疑「君はこの本を読んでヘレンのどこに一番感銘をうけましたか？」答……ヘレンは一度本を書いた。小さい時母から読んでもらった物をそのまま書いて後でそれが人の作とわかって裁判にかけられ，今までの事もこれからの事も不安になり，絶望してしまった。しかし母やサリバン先生から助けられて立ちなおった。そしてまたりっぱに勉強をして人のために尽した。人にはできない

ような事をして，僕もこれから，人に迷惑をかけないように生活してみたいと考えた。この点が一番強い感銘をうけた。

質疑「これまで大分本を読んで来ましたが本を読み出してからどういう風に感じていますか？」答……今まで自分の分らなかったことに気がついて来た。母などがどうしてロやかましく言っていたのか分ってきた。外出すると友人とあいまたもとのように悪い事をするようになると思って言っていることが分って来た。とくに「仔鹿物語」を読んでジョディがいつも仕事をする時父と一緒で父と子がどんなに仲が良いか分った。私の家ではそんな事がなかった。色々言葉で僕の事を思っていてくれることが分った。

Y—G実施（中央型。ほとんど治癒状態に入る）

第5回面接（11月2日）母の話……本人は毎日熱心に仕事に行っている。気持も大分落付いて来た。世間の人の温い気持を感じているようだ。家庭でも前と違って親に対してもよくなり，明朗になって来た。近所の人からも交際されるようになった。本も毎日よんでいる。父にも話をするようになった。

「次郎物語」感想文……「次郎は……家に連れ戻されてから母のお民からやかましく言われ，祖母は次郎だけを差別した。そんな事でも次郎は我慢して大きくなり中学校に入ってからは乱暴はしなくなり学校からも早く帰えった。そんな次郎を一番可愛がるのは父だった。次郎も父が一番好きなようだ。……」

話し合い……母は次郎をよく叱ったが心の中では次郎をよく思ってりっぱに育てようと思っていた。とてもりっぱな母だと思った。父は次郎の心がよく分っているようだ。次郎をよい方へ育てようとした。祖母さんをなんとかもう少し注意したらなおよいと思った。中学校にはいってからは大分前と変って色んな事が判ってきた。小さい時から親が違っているのにいじけなく今日まで頑張ってきた。とても良く努力してきた。

質疑「次郎はどうして乱暴していたと思いますか？」答……乱暴をしていたのは両親の下で育てられずおもしろくなかったからだ。

第6回面接（11月12日）

「次郎物語」感想文……「今の次郎は幼い頃より考え方がずっと変ってきたようです。それは中学校に入学してからの環境が変えたものと思えるが，朝倉先生が学校を止めさせられる時も皆なにストライキだけは避けたいと自分の考えを述べたり……自分の考えは曲げず……皆なから変な目で見られたが次郎は自分の考えに誠意を籠めて皆なを納得さした。こんなところは次郎はとても偉いと思う。後で……ストライキは皆なに誤解されそうなので今度の事が静まつたらやらうという考えをもったがとても今では次郎のような考えをもった者は居ないと思う。

話し合い……中学校にはいってから一寸の考えで直ぐ行動するのを止めてまず友人にあって色々と意見を述べて相談して色々と考えて行動するようになったことがよかったと思う。父は次郎を信用していて大変よい。

第7回面接（11月20日）

「次郎物語」感想文……「次郎は中学校を退学して皆次郎の運命だと思う。道江を知って愛する様になりその事で泰一を誤解し泰一からの手紙ではっきり分ったと思うが後でその事を嘘を書くという事は悪いと思うが次郎の気持が分らないようでもない。……次郎ほど自分の考えの正しいと思う道をどんな事をいわれても進んで行くという事は誰でもできないと思う。小さいうちは人に愛される事ばかり考え後では愛される事よりも愛する事の方が大事だと思いついたようですが僕も愛される事よりも愛する事の方がよいと思います。それにこの本を読んで一番感激した事は幼い頃は兄弟仲が余り良くなかったが中学校の頃から兄の泰一と仲が良くなり心配事なんかよく二人で相談したり色んな事を話しあえる所です。

話い合い……次郎は幼い頃から人に愛されたいと思っていたが大きくなるにつれて自分の方から愛するようにすれば相手もその気持が分ってきて愛してくれるようになるということが分って来た。また次郎は幼ない時は兄弟仲があまり良くなかったが青春時代になって仲がよくなったがそこがよかった。私達も兄弟仲良く話し相手になっていると大きくなっても心配がないと思った。

第8回面接（11月27日）母の話……昨日初めて給料をも

らってきて大変喜こんで帰りにみかんやバナナを買って来て家族に御馳走をしてくれた。大変明るくなった。残金は貯金にした。

「野口英世」の感想文……「僕はこの本を読んで世界の人に名前を知られるように有名になった人はほとんど家が貧乏で幼い時に人々に馬鹿にされ馬鹿にした人を見返してやろうと思って努力してある程度有名になると偉くなるともうそんな事は考えずただ自分の進んで行く道だと思い研究なり勉強に励んで行ったと思う。野口英世なんか自分の命まで捨て，人のため世のために病原菌の事を研究して本当に偉いと思う。まだ人に名前は知られていないがりっぱな人は多くいると思う。それに初めから自分の名前を世の中に出そうと思って頑張ってもだめだと思う。もし成功したにせよすぐ人に忘れられてしまうような人に過ぎないと思う。僕もこれからの人生はまだ永いのだから人に知られなくとも陰でよい事をしたいと思っている。

話し合い……手を火傷をしたのは母の責任で，自分よりも母の方が苦しかっのを見て来ているので，母のいう通り勉強をして……いじめられた近所の人を見返して勉強をして行くと自分に金を出してくれる人のありがたい気持が分って自分の行く道は人を助ける医学の人になり最後まで頑張ってその研究に自分の一生を捧げた。たいへんりっぱな人だ。私も今まで目の怪我をしたのは母の責任だと思って色々困った事を言ったりしたりして困らして来たが最近は自分で自分の力で生活を築いて行かなければならないと思った。この本を読んで目が悪いと云って親に反抗しようとしてひがんでいたのは誤りであるという事が分った。

第9回面接（12月4日）

「家なき子」の感想文……レミを孤児院にやらねばこちらが喰べていかれないとレミの前で父が言ったのを聞いた時のレミの気持は不幸のどん底に落されたようだったと思う。それから……元の家にいるよりビタリス小父さんに預けられた方がよかったと思った。……という筋書だが僕は本当の母にあう場面を早く読みたいと思い二日間で読んでしまった。

話し合い……レミは幼い時から旅をして悲しい事や苦しい事にあったがりっぱに成長し最後には自分の手で幸福を摑んだ。継父はレミに意地悪をしたけれども内心はレミの事を思っていたと思う。ピタリス老人はとてもよくレミを愛していたと思う。植木屋の父も本当にレミを愛している。レミには育ての母が本当の母のようなものである。

第10回面接（12月10日）

「夜あけ朝あけ」の感想文……「……母が死んでからは，こんな事をしていては一家の者全部が生活して行けなくなると思い自分は東京に出て働かうと思い東京に行ったが後で村の人々に噂され正司は自惚れて不良になったとかまた農業が厭になったとか色々悪口を言っていたがその間は一家の者は本当に厭な気持だったと思う。そして最後に七夕の夜の映画でニュースの中で夜の太陽としてりっぱに働いている正司を見て今までの陰口は忘れてスッカリ賞めていたが本当にそんな人は自分勝手だと思う。それにしても正司はまだ青年になっていないのに一家を背負って行かなければならなかったという事は本当に可愛想でしかたがなかった。」

話し合い……正司は東京に出て一生懸命働いて悪い道にも入らず昼も夜も仕事をした。……最初に供出米を出したという事で人に色々賞められたがそんなことで自惚れなくて東京に出て行く決心をした。あとで人がどんなに自分の陰口をするか分っていたがやっぱし生活して行けないのでよく考えてそういう決心をした。一人で働くという事は本当はまだそのような年では皆なにできないのに自分が苦労すれば一家は生活が楽になると考えて小さい時から一生懸命働き本当にりっぱだった。……両親が死んで居なくとも，兄弟力を併せて生活していって，正司はとても真面目で正直で人に対しても反抗しようとしない処がいいと思った。最後には映画に出たが夜まで働くという事はとてもよい事だと思った。

質疑「君はこの本をよんで一番よく教えられた事はどんな事でしたか？」答……兄弟仲がよくて喧嘩をする事が一度もなく色んな事を話しあって嬉しい時は皆なで喜こび悲しい時は母が死んだ時など皆なで悲しみを分ってきた。本当に兄弟の仲がよかった事が一番感動した。

第11回面接（12月18日）

「狭き門」の感想文……「僕はこの本を読んでアリサとジェロームの幼な馴染みから恋に変っていった事を書いていると思う。……アリサは自分の妹がジェロームを好きになっていることを知りジェロームに変な態度をとったりして本当に妹思いだと思うが自分の本当の心をはっきり言った方がよいと思った。……最後にはアリサがジェロームに貴男を愛しているけれどもそれ故に別れなければならない。でもそれはアリサにとってもとっても辛い事だったのではないでしょうか。僕はまだ本当の恋というものを知りませんが本当にこの二人の交際は美しいように思います。本当に残念なのは最後に二人が一緒になれずアリサは体の疲れで死んでいったという事です。……」

・Rorschach 実施（ほとんど適応段階に好転）治療終結試験観察打切り。

4　終りに当って

(1)以上少年は読物によって　(a)自己の非行化の原因が両親や同胞の家庭の愛情慾求不満にあったこと，(b)また自己の身体的欠陥に劣等感を覚え自暴自棄的に非行を重ねていたこと等を自覚しそうした行動が誤りである事に気付いて深い反省を示し立上りを示すとともにまた　(c)恋愛というものが清らかな高い精神的なものであり恋愛と結婚は一体的に考えらるべきものであることも「狭き門」を通じて学んだようである。少年はこの中で被愛慾求から進んで他者への愛に目醒め人間的成長のあとも明らかである。これとともに家庭でも職場でも生活態度が板についたものとなってきたことも少年の告白及び母の話から明らかである。

(2)心理テストの結果からも少年の人格内容が読物の影響で大きく変容していることが確認できる。

(3)ここで我々は読書療法の治療効果について一般的考察をしてみたい。

(a)読書療法についてはまだ消極的見解を示す者があるが，我々の読書療法の臨床化の途はかなり順調に進行している。小規模ではあるが我々の手許で実用化への段階に移行しつつある。

(b)前書きに誌したように我々は読書療法の深層治療化を目途として作業を進めている。この為めこの case においては解釈投与の技法 (Giving Interpretation) を導入したが，主としてここでは対象者自身に洞察の機会を得させるべく自己解釈技法及びこれに準ずるような治療的質疑を投入してみたのである。勿論完全ではないが，この技法が洞察を深めるのに効果的であることは認められよう。随而この技法が治療上有効な技法としての価値を認めてもよいと思われる。しかしこの解釈技法は常に必ず必要というものではない。治療的読書材が極めて case に適合しているか，または感銘が極めて強力でかつ具体的である場合には除反応 (abreaction) の機制はかなり適確に行われ解釈技法を必ずしも必要としない場合もあるという事も制然とした。さらに将来においては初期非行化への所謂発生的成因に関する解釈—洞察という技法が，深層治療のために必要と考えている。今回の技法は前報告において提案した Bellack 学説の具体化であった。

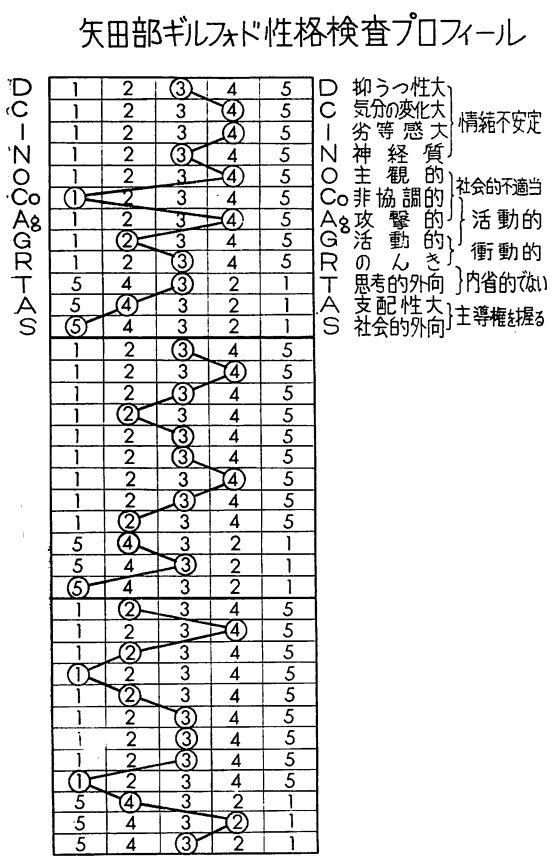
(c)我々は前報告で，読書療法の治療機制について，Y—Gテストの所見結果，T因子（思考性）の著しい増進，その結果G及びR因子（衝動性）の消去，また情緒面においてはI因子（劣等感）の解消及びO因子（社会的適応）の増大が明かに確認できるようになり読書療法の治療機制がこの過程を辿るものではないかという事を提言したが，この事は本例においても極めて妥当なようである。読書療法の治療機制は，思考性（内省・洞察）の増進→衝動性の消去→適応性の増大→情緒の安定という機制をY—Gの結果として大体考察できるようである。さらに本症例において我々は，

(1)右寄り非行型の人格プロフィールから中央平均型に移行する。

(2)その後さらに情緒の安定化が進行していき遂次左寄りに移行するとともに行動は右下り型に移行することが分った。これは内面的な思考性の増進が情緒の安定とともに確信的な目的に行動がとられるようになり自信のある積極的な行動型に移行するものと考えられる。すなわち右寄り型の非行型から平凡な中央型に移行して最後には理想的な人格プロフィー

ルたる左寄り右下り型に移行して行く過程が如実に示されている。すなわち本例におけるY—Gテスト結果の読書療法による変容の過程は別図のようである。

（上段　S40年10月7日　治療開始期）
（中段　S40年10月26日　治療開始19日目）
（下段　S40年12月4日　治療開始59日目）



(d)Rorschachの結果からでは治療による人格変化の過程は下記の通りであった。大体2ヶ月後には適応情態はほとんど不適応段階から適応段階に入ることが明らかになった。我々は一般的にR（反応総数）の増大及び微弱ながらM反応の増出による人間的共感性及び内省力の増強とFC反応の増加による情緒の成熟と安定を見ることができ，さらに良形質のF反応の増加による自我機能の健全化とともにM及びFC反応の増加と併せて内的及び外的な自我統制力の強化を認めることができる。またC′系反応の減少による心理外傷による抑鬱的な気分は一掃されつつあるとともに，その攻撃的機制が解消されつつあることを示している。以上の事は心理療法によるロールシャッハ反応の変化と傾向的には大体一致しているのではないかと考えられ，修正BRSの改良得点と併せ考えて，我々は読書療法による人格変化にかなり期待をかけてもよいのではないかと考えている。ただし問題は，P，W，H，S及びFM反応にいま少しの変化がほしい処であって，この点が我々の将来の研究課題となるものと思われる。

Rorschach 結果

回　数	1	2	3
月　日	10— 8	11—12	12—18
段　階	−23	−17	−4
R	20	22	30
P	4	3	3
W	2	1	1
D	13	17	22
Dd	5	2	5
S	1	2	2
M	1.5	2	2
FM	6	7	6
F	3	4	5
FC	3.5	1	1.5
Fc	5.5	8	13
FC	0	1	2
m	0	0	1
Fk	2	1	0
A(Ad)	15	17	22
H	3	2	4

(4)以上の事実から我々は従前の症例報告と併せて非行少年に対する読書療法の治療効果はかなりの治療率を示し，しかもその期間はおよそ2ヶ月前後でかなりの重罪虞犯少年を治療し得るものであることが例証されたと考えられる。心理療法は一般に非行領域ではその治癒率及び期間の点において実務臨床家に未だしの感があるようであるが我々は読書療法がこの期待にかなり答えうるものではないかと考えている。

（付記）　私の研究開始以来終始変わらぬ激励と指導助言を下さった阪本先生を始め山本先生，室伏先生に感謝いたします。

最近の児童漫画と子ども(Ⅱ)*

日本女子大学

阪　本　一　郎**

7. 調査のデーター

調査は都内の港区立南山小学校と渋谷区立中幡小学校の4，5，6年生，各2組ずつ，表1のように計 518名に，質問紙法で行なった。時期は昭和40年7月上旬。

表1　調 査 人 員

学年	男	女	計
4	92	76	168
5	94	90	184
6	78	88	166
計	264	254	518

8. 漫画への接近状況

まず，被検者である東京都内の中流以上の家庭の子どもたちは，漫画にどの程度接近しているかを見当づけるために，「あなたが，このひと月ほどの間に読んで，おもしろいと思ったマンガがありますか。」と問い，「ある。読んだけれどもなかった。読まなかった。」のどれか一つを選ばせた。その結果，全体の84%が「ある」と答えている。「読んだけれどもなかった」が6%，「読まない」が10%である。男女差はほとんどなく，学年差も僅かで，有意ではない。

実は「読んだけれどもなかった」が，もっと多く出ることを予想していたのだが，現在のレベルでけっこう子どもは楽しんでいるのであった。それにしても「読まない」が10%あるのは意外であった。これは雑誌や週刊誌を読まないことを意味するからである。

次に好きな漫画の種類をいくつでも選択させた。表2がその結果である。「その他」の自由記入欄に，「怪談」が15名，「スリラー」が12名あった。

表2　好きな漫画の種類（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
冒険	46	42	45	57	31	44
探偵	36	36	37	48	24	36
伝記	22	26	21	21	25	23
動物	23	19	19	23	17	20
戦争・西部物	32	21	25	44	7	26
時代物	14	11	23	24	7	16
空想科学	45	66	52	71	39	55
スポーツ	33	28	33	51	10	31
悲哀	39	41	46	14	70	42
ユーモア	42	56	63	51	56	54

全体からみると，「空想科学」が最高で，「ユーモア」とともに過半数の子どもに愛好されている。昭和34年の調査でも，未来ものとユーモアものとは大都市の子どもの好むところであったが，それと符合する。（前号掲載の参考文献の3）。第3位が「冒険」，第4位が悲哀の順になる。もっとも好まれる率の低いのは「時代もの」で，これは前回の調査では郡部の子どもの好むところであった。それにしても率が非常に下っているのは，最近はよい時代もの作品がないからかもしれない。低いほうからの第2位が「動物」，3位が「伝記」，4位が「戦争・西部もの」となり，「動物」はもっと低学年の子どもに好まれること，「戦争・西部もの」のブームがすでに落ちていることを物語っている。

* How are children reading recent comics?(Ⅱ)

** SAKAMOTO, Ichiro (Japan Women's Univ.)

男子の最高は「空想科学」で，第2位が「冒険」，3位が「スポーツ」と「ユーモア」，5位が「探偵」で，「悲哀」や「伝記」は好まれない。女子は「悲哀」がトップで，「ユーモア」がこれに次ぎ，「空想科学」は第3位である。女子は「戦争・西部もの」「時代もの」「スポーツ」「動物」などを好まないなど，前回の調査と同じ傾向を示している。

9. ロボット漫画の魅力

次にロボット漫画の魅力をさぐってみた。

(1) 「鉄腕アトム」への接近

「アトム」を知らない者は一人もいない。何を通じて知ったかの答は，テレビが最高（93%）で，この番組の視聴率の高いことを裏書きしている。次がマンガ本で（48%），これもそうとうに普及しているようだ。次が雑誌（22%），映画（13%）の順である。

(2) 「アトム」の興味

「アトム」の漫画はおもしろいと思うかという問いの答えが表3である。

表3 「アトム」はおもしろいか（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
おもしろい	85	86	65	86	74	79
おもしろくない	2	1	7	2	5	3
どちらでもない	13	13	28	12	21	18

全体の79%が「おもしろい」と言っている。男児のほうが興味を持っていて，女児には「おもしろくない」や「どちらでもない」がやや多くなっている。学年では6年で興味が落ちているが，これは女児において，4年の「おもしろい」の83%が，6年で55%に落ちること，「おもしろくない」の3%が5%に殖え，「どちらでもない」の14%が37%に上ることなどのためで，男児のほうでは，「おもしろい」が87%が77%に下る程度である。したがって「アトム」は，4年生では男女およそ同じ程度に興味を持っているけれども，女児は早くその興味を失っていくようである。

(3) 「アトム」のどこが好き

「では，アトムのどんな所がすき，またはすきではないのですか」と問い，次の5項のそれぞれに，「好き」「好きではない」のチェックをさせた。表4は「好き」のほうの人数の%である。

表4 「アトム」の好きな所（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
全体の絵	91	84	76	87	81	84
アトムの容姿	88	77	61	79	71	75
アトムの性格	94	92	82	89	90	89
科学的な空想	97	96	89	96	92	94
話のすじ	88	93	75	88	83	85

全体では，「科学的な空想」が好きというものがもっとも多い。男女とも，またどの学年でも，これを指摘する者が最高である。次いで主人公アトムの性格が好きだという。この2点をおさえて「アトム」が好きというのは，この作品の特質をよく理解していると言えよう。主人公アトムの容姿がもっと好かれているのではないかと予想したが，これは最低であった。4年生ではかなり高いが，上学年になるにつれて減じている。それも男児4年の86%が，6年で70%に減ずるのに対して，女児では90%から53%に減じているのである。ただ主人公の容姿がかわいいからという好み方ではないことに注意したい。

(4) 「アトム」以外のロボット漫画への接近

「アトム」のほかのロボット漫画を見ている者は，全体の95%で，おおかたは見ている。男児では97%，女児は91%で，男児のほうが見ている率が高い。

見ている作品の題は次のようである。

鉄人28号	41%
エイトマン	40
ビッグX	5
スーパージェッター	4
宇宙少年ソラン	3
遊星少年パピイ	2

ほか12点

全体で18点もあるのは驚く。

「どちらのほうがおもしろいか」の問いに，「アトムのほう」と答えたものが48%，「アトムのほうがおもしろくない」が14%，「どちらとも言えない」が38%である。「アトム」の支持者は男児45%，女児51%で，女児のほうに多く，女児では4年の64%が6年で40%と減じている。男児では学年による差は認められないが，「他のほう」を選ぶ率は14%から26%とふえ，女児では「どちらとも言えない」が30%から50%にふえている。

「鉄人28号」と「アトム」とを比べた子どもの62%は，「アトムのほうがおもしろい」と言い，「どちらともいえない」が32%，「鉄人のほう」を選んだものは僅か6%である。大体，「アトム」のほうが人気があるようである。

「エイトマン」と比べた子どもで，「アトムのほうがおもしろい」は32%しかない。「エイトマン」のほうがおもしろい」は21%，「どちらともいえない」が47%と多い。これを見ると「エイトマン」は「アトム」とほぼ同じ程度に興味を持たれていると言えよう。

(5) ロボット漫画の興味

ロボット漫画の一般についての好き嫌いを下記の選択肢から選ばせたのが表5である。

表5 ロボツト漫画の好き嫌い (%)

	4年	5年	6年	男	女	全
すき	76	67	51	75	54	65
すきではないがおもしろい	23	31	46	23	39	31
すきではない	1	2	3	2	7	4

「すきではない」は僅か4%である。「すき」は4年に多く，学年が上ると減少して，「おもしろい」に移行するようである。男児は女児よりも「好き」が多く，4～5年では80%以上である。

(6) ロボット漫画の受けとめ方

ロボット漫画のどういうところが好きなのかを，表6の各項について判断させてみた。

表6 ロボツト漫画のどこが好き (%)

	4年	5年	6年	男	女	全
冒険・勇気	81	83	79	87	73	81
こわい	80	72	73	78	73	76
ふしぎ	91	89	84	88	88	88
ユーモア	91	92	90	91	92	91
かわいらしい	77	80	66	62	87	75
かなしい	53	66	49	42	70	56
感心	86	89	81	85	86	85

全体では「ユーモラスなところ」が最高で，「ふしぎなところ」，「感心させられるところ」，「冒険の勇ましいところ」などに興味が集中していて，「悲しいところ」は比較的僅かしか受け取られていない。ロボット漫画には悲しい要素は少ないのであるから当然であるが，それでも女児はかなり多くこの要素を好んでいる。また女児は「かわいらしいところ」をよろこぶのは，前に見た「アトム」の容姿を好むのと対応している。

かくてロボット漫画は，ユーモラスで，ふしぎで，感心させられる，それに勇ましい冒険が含まれている漫画として愛好されていることが知られた。

10. 忍者漫画の魅力

次に「サスケ」を中心にして忍者漫画への興味を分析してみる。

(1) 「サスケ」への接近

「サスケ」を知っている者は，全体の77%であった。男児の83%，女児の71%で，やはり男児のほうが多い。だが女児の率がかくも高いのは予想外であった。

接近のルートは，テレビ (35%)，雑誌 (34%)，漫画本 (21%)，映画 (16%) その他(2%) となっていて，「アトム」よりも分散している。

(2) 「サスケ」の興味

漫画の「サスケ」はおもしろいと思うが，知っている者だけに答えさせたのが表7である。

「サスケ」を読んだ者のうち47%がおもしろいと答えている。一般に「アトム」ほどの人気はなく，とくに女

表7　「サスケ」はおもしろいか（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
おもしろい	54	49	39	55	36	47
おもしろくない	12	17	24	14	24	18
どちらでもない	34	34	37	31	40	35

児には好まれないようである。学年が上になるにつれて「おもしろい」が減じ，「おもしろくない」が増すのは，女児にその激しい増減があるためで，女児4年の「おもしろい」50%は6年で27%に下り，4年の「おもしろくない」9%が6年で31%に上っている。男児には学年による推移はそんなに大きくはない。したがってこの作品は，女児の高学年に好まれないのである。

(3)　「サスケ」のどこが好き

前と同じように「サスケ」のどんな所が好き，または好きではないのかを問うた。各項に好きと答えた者の%を示すと，表8のようである。

表8　サスケの好きな所（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
全体の絵	72	55	54	67	51	60
サスケの容姿	78	68	50	69	59	65
サスケの性格	79	75	63	72	71	72
忍術の空想	85	84	78	90	72	83
話のすじ	66	71	63	70	60	66

ここでも，「忍術の空想」が好きというものがもっとも多い。ただし女児はこれを男児ほどは好まない。次いで主人公「サスケの性格」が来るが，これはあまり大きな男女差はない。まずこの2点が上位に来るのは，「アトム」の場合と同じで，子どもの漫画の見方が安定していることを証していると思われる。「サスケの容姿」は女児の4年で86%が好きと答えているが，6年では41%と下り，好きでない者のほうが多くなっている。また「全体の絵」は女児4年で70%が好きと答えているが，5年で44%，6年で43%と下り，やはり好きでない者のほうが多くなっている。これによって，「サスケ」は全体の絵，および主人公の容姿が高学年の女児には好まれないこと，しかしその傾向は男児にもあることが知られる。

(4)　「サスケ」以外の忍者漫画への接近

「サスケ」以外の忍者漫画を見ている者は，全体の84%で，かなり見ている。男児は93%，女児は75%で，やはり女児は少ない。

見ている作品は次のようである。

風のふじ丸	69%
伊賀の影丸	34
忍者部隊月光	4
ほか13点	

「サスケ」と比べて，どちらのほうがおもしろいかの問いに対して，「サスケのほう」と答えた者が14%，「サスケのほうがおもしろくない」が46%，「どちらとも言えない」が40%であった。忍者漫画の中で，「サスケ」がいちばんおもしろいという支持者は，意外に少ないのであった。「サスケ」の支持者は，男児の15%，女児の12%で，ほとんど違わないが，「サスケ」のほうがおもしろくない」という者は，男児の51%女児の39%で，男児のほうが「サスケ」を支持せず，「どちらとも言えない」は男児の34%に対して女児は49%で，女児のほうが弁別力が低いようである。

「風のふじ丸」を読んで，「サスケ」と比べた子どもの40%は，「ふじ丸」のほうがおもしろいと答え，「サスケ」の支持は僅か12%である。これには男女の差はほとんどない。

「伊賀の影丸」と比べると，「影丸」のほうがおもしろいと答える者は56%で，「サスケ」の支持は10%である。男児の62%，女児の39%は「影丸」を支持し，男児の支持が高い。「どちらとも言えない」が男児の28%，女児の51%で，やはり女児のほうが弁別力が低い。

これを総合すると，忍者漫画では「伊賀の影丸」がもっとも人気があり，次が「風のふじ丸」で，「サスケ」はあまり支持されていないようである。

(5) 忍者漫画の興味

忍者漫画の一般についての好き嫌いは表9のようであった。

表9 忍者漫画の好き嫌い（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
すき	57	45	46	65	32	49
すきではないがおもしろい	30	39	34	26	45	35
すきではない	13	16	20	9	23	16

「すきではない」が16%あって，ロボット漫画よりも人気は低い。とくに女児には好まれないようである。

(6) 忍者漫画の受けとめ方

忍者漫画のどういうところが好きなのかを，前と同じ項目でたずねた結果が表10である。

表10 忍者漫画のどこが好き（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
冒険・勇気	78	87	70	86	67	78
こわい	84	77	69	80	73	77
ふしぎ	90	88	77	88	81	85
ユーモア	89	80	79	83	83	83
かわいらしい	70	63	51	54	70	61
かなしい	57	51	49	43	65	52
感心	83	80	66	75	78	76

全体では「ふしぎなところ」が最高で，それに「ユーモラスなところ」が次いでいる。男児はさらに「冒険の勇ましいところ」「こわいところ」などを買っている。「かわいらしいところ」や「悲しいところ」は男児は問題にしないが，女児はここでも，そういう点を見いだしている。

これから忍者漫画は，怪奇・恐怖・冒険などにユーモアをまじえたものとして受けとられていて，ロボット漫画と共通する点は，ふしぎ・冒険・ユーモアであり，相違するところは，ロボット漫画には感心させられるという者の率が高いのに比べて，忍者漫画はそれがわりに低く，その代わり忍者漫画には恐怖の要素がわりに高いと言えよう。

(7) 忍術の真偽

以下，忍者漫画についての子どもの意見をまとめる。

まず，「漫画に出てくる忍術は，むかし本当にあったことでしょうか」という問いに対する回答が表11である。

表11 忍術はむかし実在したか（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
あった	49	27	39	50	28	39
なかった	22	38	37	28	36	32
わからない	29	35	24	22	36	29

「あったと思う」が全体の三分の一以上，「なかったと思う」が三分の一で，忍術の実在を信じる者がわりに多い。ことに男児の半数がこれを信じているが，女児のこれを信じる者は約四分の一である。

表12 忍者の捨て身の態度への共感（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
感心する	57	43	47	53	44	49
感心しない	26	34	30	31	30	30
どちらとも思わない	17	23	23	16	26	21

次に，「忍者は自分の命を惜しみませんが，それは……」と問うて表12の選択肢で答えさせた。「感心する」が約半数で，男児にそれが多い。ここで目立つのは4年生の反応で，共感者は男女とも57%と多い。このことは表11にも見られた。おそらく4年生では，この種の問題については批判的態度が確立せず，与えられたものに無条件で共感するのであろう。男女とも不共感者が上学年で増し，女児には無関心の者が増している。

表13 正義と人命尊重との価値の葛藤（%）

	4年	5年	6年	男	女	計
殺人は構わない	10	7	10	9	9	9
殺人も仕方がない	52	37	41	44	42	43
殺人はよくない	33	41	38	42	33	37
わからない	5	15	11	5	16	11

こんどは「忍者は正義のために人を殺しますが，それは……」と問うて選択肢を選ばせた。「正義のためなら

構わない」は少いが，「正義のためなら仕方がない」と考えている者が最高で，4年生は男女とも半数を越えている。この判断は6年の男児にもわりに多く（44%），したがって全体としての%も下らない。だが「正義のためでも，よくない」は，4年生を除けば，どの学年でも男女とも「仕方がない」とほぼ同率である。「わからない」は女児にやや多かった。このように，正義のためなら殺人もやむをえないという忍者漫画の思想がかなり多く鵜呑みにされているところに問題があるようだ。

表14　残酷な絵に対する態度（%）

	4年	5年	6年	男	女	全
あった方がよい	40	16	41	41	23	32
ない方がよい	37	62	24	31	52	42
どちらでもよい	23	22	35	28	25	26

最後に「忍者に殺された人のむごたらしい絵は……」の問に対する反応が表14で，全体としては否定者が上まわるけれども，これは女児にその傾向がいちじるしいためである。男児は4年生と6年生とで肯定者が半数以上になっていて，忍者漫画の残酷な描写に魅力を感じている。

11. むすび

(1) 東京の山の手の子どもの90%は，ひと月の間に何か漫画を読んでいて，その大部分はおもしろいと言えるものに出あっている。すなわち現在の漫画の中に，子どもを満足させる作品があるのではあるが，しかし彼らを満足させるに足りない作品もあるようである。

(2) 子どもに好まれる漫画の種類には，性差・年齢差・地域差が見られる。今回の調査でも，男子は空想科学ものに，女子は悲哀ものに圧倒的に興味を持ち，両性に共通するのはユーモアものであった。このうち空想科学ものは広義のアクションものの変化形で，この種のものには流行的推移があるようである。したがって児童漫画の3役は，アクションもの，悲哀もの，ユーモアものだといえる。

(3) アクションものの今日の花形は，未来形式のロボットものと，時代形式の忍者ものとである。前者は男女ともに愛好されているが，後者は女子には迎えられていない。

(4) ロボット漫画は，ユーモラスで，ふしぎで，感心させられるところがあり，それに勇ましい冒険が織りこまれている漫画と受けとられている。代表作は「鉄腕アトム」だが，これと同程度の人気があるのが「エイトマン」で「鉄人28号」がそれに次いでいる。

(5) 「アトム」は善意を強調した magic helper の物語で，つねに人間を助けるために活躍する。主人公は小学校の低学年生程度のパースナリティに描かれていて，善良で純真な“よい子”である。したがって高学年の読者には自己を投映するよりも，ペットとして愛好されるのであろう。愛好率は高学年に進むと低下する。

(6) 忍者漫画は，男子にもロボット漫画ほどの人気はないにしても，読者はかなり多い(93%)。これは怪奇・恐怖・冒険などにユーモアをまじえた漫画と受けとられていて，ロボット漫画にくらべると恐怖性が高く，感心性が低い。代表作は「サスケ」と考えられるが，子どもの支持は亜流の「伊賀の影丸」が最高で，「風のふじ丸」がそれに次いでいて，これは第3位となっている。放送関係の事情によるのかもしれない。

(7) 「サスケ」は人間の悪意を強調した物語で，「アトム」が科学的ロマンティシズムに拠っているのに対して，これは伝奇的リアリズムに拠っている。主人公のサスケはむしろ脇役であって，主役はその父の忍者である。magic helper としての活躍もするが，実は忍者であるがゆえの運命と戦っているのである。

ロボットはこわされても修理されるが，忍者には残酷な死よりほかにない。こうした人間観は子どもには理解できないのではないか。4年生あたりでおもしろいと言うのは，ただ局部的なアクションのスリルと，忍法の解説に興味があるだけで，高学年ではそれにも倦きるのであろう。

(8) 忍者漫画は人命軽視と残酷性とが批判のまとになっ

ているが，自分の命を惜しまない点に感心する者は49％，正義のためなら殺人は許されるとする者は52％で，約半数は人命軽視の忍者思想に共調している。また残酷な死体などの絵を肯定する者は，男子の過半数になっている。そして，やはり男子の過半数は，むかしそのような忍術が実在したと信じている。かくて忍者漫画は少年の支持を得ているのであるが，これはやはり教育的に批判されなければならないであろう。これは死の恐怖の代行経験による実験だから，むしろ人間の生の本能の自然の欲求として肯定すべきだというフロイド流の解釈ができるにしても，少年の生活の中で，これほど多く死の実験が必要であるかどうかが問題であろう。

(9) ロボットは宇宙に飛び，忍者は地底にもぐる。ともにその空想科学性が今日の子どもにアピールしているのだが，前者が童話的発想であるのに対して後者が講談的発想に立っているのが対極的で，したがって「アトム」は幼年期の男子にも女子にも愛好されているけれども，「サスケ」は少年のファンを持つだけで，それほど人気は高くなく，否定的な者もある。作家としてはともに今日の物語漫画の両横綱と見なされるが，「サスケ」は読者対象の層の照準に誤算があることは否めない。少年サスケを登場させて，少年層への接近を図ってはいるが，作品の結構は作者の前の作品である「忍者武芸帖」と等しく，すくなくとも青年中期以後の貸本屋利用者層（多くは勤労青年層）への照準の構えのままであって，少年期の生活感情への適応が軽んじられている。したがって「サスケ」には斜視的な所があり，「武芸帖」よりも作品としては落ちる。このため亜流ではあるが適合性が配慮されている「影丸」や「ふじ丸」の方に軍配があがるのであろう。

〔付記〕 この調査に協力して下さった飯田公一，上松行雄の両氏に感謝の意をささげる。

人生観の確立と読書との関係に関する調査*

玉川大学

木村典子**

A 調査の目的

この調査の目的は，(1)青年期における人生観の樹立を現在の高校生はどのような方法で行なっているか。(2)マス・コミュニケーションの発達している現在にあって，発達課題の達成に読書はどのような役割を果たしているか。(3)青年期の人生観の樹立という発達課題の達成に適した書物のリストが作製できるだろうか。このような問題を解明することである。

B 調査の方法

(1) 調査期日　昭和40年10月末

(2) 調査対象　高等学校1年から3年までとし，東京都内の公立高校から，都立S高校，都立I高校（ともに共学校）私立の高校からW高校（男子校）T学園(女子校)と特殊ケースとして全寮制の男子校である都立A高校（1年生のみ）とした。調査人員計717名（内男子435名，女子282名）

(3) 調査方法　質問紙による無記名回答法を用いた。

(4) 予備調査　10月5日にS高校1年男女33名に予備調査を実施し，その結果によって多少問題に手を加えた。

C 調査の結果とその考察

（I）「自分の性格を何かによって見つけ出したことがありますか」

この問に「ある」と答えたものが，全体の89%ある。そのきっかけとなったものは，表1のように，友人の影響が40.5%で第1位になっている。男子の方は次に書物の影響が多いが，女子の方は家族との話合いによって自分の性格を見い出している。女子の場合7割までが友人家族という対人関係によっており，男女の差が見られる。同じ対人関係でも教師の影響は少ない。

表1　自分の性格を知ったきっかけ（%）

きっかけ	男子	女子	計
書物	22.1	13.0	17.9
テレビ	3.8	6.2	4.8
ラジオ	0.5	0.0	0.3
映画	3.8	2.7	3.5
友人	36.1	47.3	40.5
教師	6.2	3.0	5.0
宗教	16.7	23.4	19.6
その他	10.8	4.4	8.4

書物の影響を受けて自分の性格を見い出した人で特に

表2　性格をみつけ出した本（人数）

書名	男子	女子	計
次郎物語	8	6	14
罪と罰	7	4	11
ジャン・クリストフ	4	3	7
赤と黒	2	3	5
こころ	4	1	5
デミアン	3	1	4
風と共に去りぬ	2	2	4
大地	2	2	4
車輪の下	2	2	4

* A survey on the relation between high school students' reading and settling their view of life

** KIMURA, Noriko (Tamagawa University)

影響を受けた書物は表2のようであった。『次郎物語』は，登場人物の人柄が割につかみやすい点などによるからではないだろうか。Ⅰ高校1年の女子生徒は『ジャン・クリストフ』を読んで「クリストフのものの考え方や行動が自分とてらしあわせた時似ているものがあった」としてこの本により自分の性格をみつけ出すことができたといっている。また，日本文学は一切読まない，何故ならヨーロッパ文学に於けるキリスト教のような精神的支柱がないからだといい，更に日本文学は芸術至上主義で人間を描こうとしていないからだといって西洋文学を愛しているW高校3年男子は，『車輪の下』を読んで「—前略—あまりにも主人公ハンス・ギーベンラートの成長していく過程に似ているのでおどろいた。彼の歩む人生は，まるで僕の人生であり，何か先を見すかされているような気がした」とのべ「僕は，特に『車輪の下』によって自分の性格をみつけ出した」といっている。

この項目にあげられた書名は95冊にのぼるが，表2でもわかるように外国文学の方が日本文学よりも7対3の割で多く読まれている。W高校の生徒がいうのも一つの理由であろう。

（Ⅱ）「あなたは何かの影響によって自分の性格が変わっていった経験がありますか」

「ある」と答えたものは，約7割である。しかしこの調査では，よい方への変化か或いはその逆かどうかがわからないのであるが，A高校1年生男子の解答の中に「週刊誌などによりまじめな気持が失われた」といったものがあった。性格変化の経験のない人もいる訳であるが，約7割の人がこれを経験している。

性格変化の動機となったものは，問（Ⅰ）と同じく，友人が最高率で，次に男子は書物，女子は家族の影響となっている。ラジオ・テレビ・映画などの影響は三者を合計しても書物には及ばない結果となっている。「その他」のほとんどが，クラブ活動という解答をしている点は注目していいように思う。興味の同じ者が集まって作る小さな社会での活動は，自分をみつめたり，知ったりするのによい場所なのかもしれない。

表3　性格変化に影響したもの（%）

項　目	男子	女子	計
書　物	21.3	7.0	15.5
テレビ	3.5	3.9	3.6
ラジオ	0.5	0.8	0.6
映　画	4.0	2.3	3.3
友　人	43.8	59.8	50.4
教　師	9.3	4.6	7.4
家　族	9.3	14.6	11.5
その他	8.3	7.0	7.5

影響を受けた書名は，表4のようである。このほか『若きウェルテルの悩み』を読んで性格が変っていった経験をしたⅠ高校1年の女生徒は，このような感想を寄せている。自分が友にしてあげることは自分の利益を考えず友の喜ぶがままにして友の幸福を増すことである。この言葉で自分が友にしてやったことをふり返ってみて反省させられ，そして，これから少しでもこれにあった行動をしていこうと思い実行している。」この他にも，これまでの自分の行動を反省し，よい方向にむけていった人が3人いた。S高校3年男子は『アメリカの夢』を読んで「現実のわれわれの内面がえぐり出されている。生への必然性とか，死についての疑問が明白に描き出されている」とのべ，この本により自分の性格が変わっていった経験をしている。

表4　性格が変化された本（人数）

書　名	男子	女子	計
次郎物語	4	3	7
罪と罰	4	2	6
赤と黒	3	2	5
ジャン・クリストフ	3	2	5
路傍の石	3	2	5
聖　書	2	2	4

ここにあげられた書名は66冊であるが，問（Ⅰ）と同じく外国文学が7割を占めている。

（Ⅲ）「あなたが現在理想とする人，尊敬する人がいましたらその人の名をあげてください」

理想の人をあげた人は40%強で，半数にも満たない。

彼らの描く理想像は表5のようであった。

表5　青年の理想の人物

順位	男子 人物	人数	女子 人物	人数
1	両親	20	ケネディ	19
2	ケネディ	18	シュバイツァー	18
3	シュバイツァー	14	両親	11
4	友人	8	恩師	8
5	ベートーベン	7	ヘレンケラー	6
6	恩師	6	友人	5
7	ヒットラー	4	リンカーン	4

表6　理想像の source（%）

	男子	女子	計
書物	46.0	46.5	46.2
テレビ	11.3	13.9	12.3
ラジオ	6.1	4.9	5.6
映画	4.7	7.6	5.9
友人	5.6	4.2	5.1
教師	5.6	7.6	6.4
家族	8.5	7.0	7.9
その他	12.2	8.3	10.6

理想像を描き出す助けとなったものは，男女とも書物の影響が大きく，46.2%となっている。次にテレビで，ケネディ，シュバイツァーなどはテレビで知ったのではないだろうか。「その他」の大半が新聞となっている。また理想像を両親と解答している割に家族の影響が少ないのは，書物やテレビにより両親のよさを再確認したような結果ではないだろうか。

影響を受けた書名は110冊にものぼるが，千差万別である。しかし言えることは，そのほとんどが理想とする人の伝記，或いは著書を読んでいることである。本を読んで理想像を描き，理想像に関する本を更に読むことによって理想像を描き直すのであろう。

（IV）「あなたは将来どんな職業につきたいと思っていますか」

将来の職業について何らかの解答をした者は，1年生が62%，3年生が80%と，学年が上がるにつれて%が上がっているのは当然といえよう。

将来の職業について男子は技術者・政治家・医者・ジャーナリストになりたい希望が多く，女子は教師・美容師などがあげられている。

表7　職業選択に参考としたもの（%）

	男子	女子	計
書物	24.4	15.5	21.2
テレビ	8.1	4.4	6.2
ラジオ	2.4	1.1	1.9
映画	4.9	3.3	4.4
友人	16.0	12.7	14.8
教師	5.1	11.9	7.9
家族	24.8	33.3	28.1
その他	14.3	17.8	15.5

職業選択にあたっては，家族の意見を参考にしたものが多く，書物がこれに次いでいる。しかし特に影響を受けた書名は余りあがらなかった。

（V）「あなたは宗教について関心がありますか」

宗教に関心があると答えたものは，1～2年がともに29%，3年が41%であった。青年期の宗教的関心は，わりに低いようである。

宗教に関心をもつようになった動機は，書物の影響によるものが男女ともトップである。W高校3年男子に「ヨーロッパ文学を読んでいると常にキリスト教が問題として浮かびあがっているから関心をもたない訳にいかない」又，S高校1年の女子にも「外国小説を読んでいると宗教が深く生活に密着しているのがわかるので宗教に関心をもっている」と同じような考え方が見られた。また，読書のさかんな学校では6割が宗教に関心を示し

表8　宗教的関心に影響したもの（%）

	男子	女子	計
書物	34.3	39.7	36.4
テレビ	4.3	11.1	6.8
ラジオ	2.4	4.8	3.3
映画	8.1	8.7	8.3
友人	14.8	4.8	11.0
教師	4.7	10.3	6.8
家族	18.1	10.3	15.2
その他	13.3	10.3	12.2

ている結果をみると，読書指導の必要性を感じる。

影響を受けた書名は51冊にのぼるが，その中でも『聖書』30人，『狭き門』9人，『出家とその弟子』6人，『キリスト法』6人，『聖書物語』3人，などがあげられている。この他にも，倉田百三，内村鑑三の著書などがあった。

(Ⅵ)「あなたは“生”とか“死”について考えたことがありますか」

この問に「ある」と答えたものは1年生78%，2年生86%，3年生81%となり，どの学年も女子の方が多くなっている。

表9　生死の問題を考えた動機（%）

	男子	女子	計
書物	31.9	26.8	29.8
テレビ	4.5	16.9	10.0
ラジオ	3.0	2.2	2.9
映画	11.9	11.5	11.8
友人	13.3	16.2	13.1
教師	5.5	2.2	4.1
家族	11.9	9.9	11.1
その他	18.0	14.3	16.4

この問題を考える動機となったものは，男女とも書物の影響が第1位になっている。

影響を受けた書名は，表10のようであった。『愛と死をみつめて』は先頃ベストセラーとなったもので，若い男女が死という冷厳な事実を前にしてなおかつ愛情を育て，愛に殉じた記録の本である。事実の記録であるだけに，この本によって受けた印象は深いものであり，かつ考えさせられたのだと思う。

表10　生，死について考えさせられた

書名	男子	女子	計
愛と死をみつめて	11	22	33
こころ	7	6	13
聖書	7	4	11
車輪の下	2	6	8
罪と罰	5	3	8
戦争と平和	6	2	8
斜陽	2	3	5

(Ⅶ)「あなたの人生観を一口に言うと次のどの項目にあたりますか」

表11のように現実的な見方となっている。そして，努力次第で人生を楽しくも苦しくもするといった見方が強いようである。それ故，理想像などは必要ないのかもしれない。

表11　青年の人生観（人数）

項目	男	女	計
理想を重視する	97	50	147
努力　〃	125	93	218
幸福　〃	104	82	186
快楽　〃	27	20	47
現実　〃	93	61	154
懐疑的なもの	22	15	37
悲観的　〃	15	8	23
虚無的　〃	22	8	30

(Ⅷ)「あなたが読んだことのある書名に○印をつけて下さい」

10冊の本は，中学3年から高校3年までの教科書と岩波100冊の本を参考にして選んだ。このうち一番読まれているのは太宰治の『走れメロス』で，二番目が森鷗外の『山椒太夫』である。これらは大半の教科書が中3な

表12　代表的な本の読者率

書名	男子		女子	
	%	順位	%	順位
走れメロス	76	(1)	92	(1)
山椒太夫	60	(2)	75	(2)
車輪の下	41	(3)	46	(3)
友情	36	(4)	43	(4)
ジャン・クリストフ	28	(5)	35	(5)
罪と罰	27	(6)	11	(9)
心	26	(7)	20	(8)
大地	20	(8)	32	(6)
田園交響楽	17	(9)	23	(7)
夜明け前	16	(10)	10	(10)

いしは高1の時にとりあげているものなのでこのような結果が出たと思われる。男女とも五位までは順位が同じである。女子の『罪と罰』が男子に比べ上位にあるのはW高校で倫理社会で強制的に読ませたためだと思われる。

学年別に見ると，この10冊のうち，1年生は3.4冊，2年生は4.1冊，3年生は4.0冊を読んでいる。とくにS高校3年が1番高く，同校3年の女子だけをとり上げてみると平均7.5冊を読んでいる。10冊全部を読んだ人は715名中8人にすぎず，1冊も読んでいない人が41人にのぼっている。

ここでは文学の中でも小説のみをあげた訳であるが，このほかに学校によって詩集や哲学関係の本が多く読まれているところがある。

（Ⅸ）「（Ⅷ）番のうち感銘を受けたものがありますか」

表13　感銘を受けた本（人）

	男子	女子	計
走れメロス	60	35	95
車輪の下	34	26	60
友　情	18	34	52
大　地	19	26	45
罪と罰	30	6	36
こころ	17	16	33
山椒太夫	15	13	28
ジャン・クリストフ	12	5	17
田園交響楽	6	5	11

『走れメロス』が印象に残っている人が男女とも多いのは，先にものべたように教科書でとりあげ内容を深く堀り下げていったからと思われる。又，男子の『罪と罰』が多いのも同じことではないだろうか，『こころ』『大地』など読んだ人が少ない割に感銘を受けた人が多い結果となっている。男女とも，藤村の『夜明け前』が全く顔を出していないのは注目される。

（X）「最近読んだ本で感銘を受けたものがありますか」

ここにあげられた本は100冊にものぼるが，特に読まれている本を拾ってみると表14のようになる。

男女とも『風と共に去りぬ』が多いが2位以下は全く変わってしまっている。女子の方は，この年代に読まれそうないわゆる純愛小説などが好まれているようである。

表14　感銘を受けた本

男子		女子	
書　名	人数	書　名	人数
風と共に去りぬ	7	風と共に去りぬ	8
狭き門	5	野菊の墓	7
武器よさらば	5	若きウエルテルの悩み	7
罪と罰	5	ジエン・エア	7
赤と黒	4	嵐ケ丘	6
チボー家の人々	4	出家とその弟子	6
細　雪	4	赤と黒	4
春賞十話	4	次郎物語	4

この（X）にも沢山の感想文が寄せられたが，高校生が自由な態度で読書を楽しみ，又それにより人生観に影響をうけているとみていいようである。

D　調査の要約とその反省

以上の調査の結果を総体的にみて，青年期に於いて人生観の達成が求められている事実をうかがうことができる。更に大学に入り，或いは社会に出てから，これが確立されるのであって，高校の時期はその準備段階ともいえると思う。

つぎに人生観達成の為の手段となっているものは，書物・友人・家族の三要素であると言ってもいいと思う。現代にあっては書物は忘れられかけているなどと言われているが，そのようなことはなく，読書の影響は相当大きいとみていいようである。ラジオ・テレビ，映画などは，現代の高校生にとって娯楽以外の何ものの要素でないようである。これらから高校生が考えたり，人格的影響を受けたりする要素はほとんど含まれてないようである。このことは，読書指導の盛んな学校ほど明白になっていることから，読書指導の重要性が痛感される。

すべての項目を通して教師の影響が低調であることに，問題があるように思う。

最後に，現代の高校生は自分の問題をよく見極め，問題によって上手に手段を使いわけているということが以上の調査から言えるのではないだろうか。

E　高校生の人生観確立のための望ましい読書材のあり方

調査の結果から高校生時代に読まれるのが望ましいと思われる本を選んでみた。第1リスト（表15）の方は，調査各項目に必ず出て来たもので高校生の人生の上に何らかの助言を与えてくれるものではないかと思われる。

表15　第1リスト

著　者　名	書　名
	聖　書
大野・河野	愛と死をみつめて
ドストエフスキー	罪と罰
下村湖人	次郎物語
ミッチェル	風と共に去りぬ
夏目漱石	心
スタンダール	赤と黒
倉田百三	出家とその弟子
ロマン・ローラン	ジャン・クリストフ
ヘルマン・ヘッセ	車輪の下

第2リスト（表16）の10冊は第1リストの次に読まれているもので，これらも少なからず教師的役目を果たしてくれるものではないだろうか。

第1リストについて一冊ずつどんな点が高校生の人生観に役立つか，高校生の感想文によって考察を加えておこう。

表16　第2リスト

著　者　名	書　名
ジイド	狭き門
パール・バック	大　地
トルストイ	戦争と平和
太宰治	斜　陽
ゲーテ	若きウェルテルの悩み
エミリー・ブロンテ	嵐ケ丘
ヘミングウェー	武器よさらば
マルチン・デュ・ガール	チボー家の人々
	シュバイツアー伝
武者小路実篤	友　情

『愛と死をみつめて』

直る見込みがなく，死を待つより仕方がないといわれる肉腫にかかりながら，病院で知りあった2人が手紙により愛情を育てていく純愛記録である。死を宣告されていながら少しでも長く生きようとする素晴しい努力に誰も胸を打たれずにおかない。又，何度もの手術を通しての死との闘いの中に生きることの重要さを知らされる。そして，読み終わって病気でない我が身を思った時，更に生きることの素晴しさを味わうであろう。事実あったことだけに強く死ということ，生ということについて徹底的に考えさせられる。

『罪と罰』

大学生ラスコーリニコフは，高利貸の老婆を殺してしまう。それ以来，彼は孤独に陥り，不安と恐怖に満ちに昼夜を送る。だが彼は自己の判断によってこの殺人を罪と認めようとしなかった。しかし，ソーニャの影響で自首し，流刑されると言った筋だが，どんな目的があるにしろ，自他の生命を滅ぼし傷つけることは，決して許されるべきでないというモラルについて考えさせられる。又主人公の殺人の動機となった功利的社会観とか，人間は凡人と非凡人に分けられているといった人間観について考えさせられる。

『次郎物語』

十才で生母と死別し，保守的な家庭の中でゆがんだ自我意識を形成する次郎が成長するにつれ自己の責任感にめざめ自己開拓をするようになる。中学に入り友や，師弟関係などの新しい人間交流によって，人生への努力が芽ばえていき，社会への眼が開かれてゆく過程を描いたものである。責任感の強い努力家の次郎を通して性格面に教えられることの多い物語である。

又，子供から大人になるという感受性の強い年代に，次郎がどんな風に社会に対する眼が開かれていったかもわかって参考になる。

『風と共に去りぬ』

南北戦争と戦後の復興を通して，アメリカ南部の貴族的な社会の崩壊を背景として，たくましく又哀れな一女性の恋愛と生活の苦悩を描き出したものであるが，スカーレットといわれる主人公に女性としての魅力，うらやましさを感じさせる。そして読者に思わぬ自信を感じさせてくれるのではないだろうか。

たくましい女性であると共にこの主人公は気ままな人でもある。そんな性格についてI高校2年の女子は「主人公と私

の性格があまりにも似ているので読んでいて恥かしくなることがしばしばありました。今まで自分というものがはっきりしなかったがこの本によって少しわかり，又同類ができたようで少し安心しました。」と言っている。

『こころ』

「彼の作品は説明を聞いているようである。大学教授だけあって人生の根本問題を理知的に人生論という一つの論文を読んでいるのと同じように感じられる」（W高校1年男子）と感じているように漱石の作品は独特の哲学があってむずかしいと思う。

「多くの善人がいざという場合に突然悪人になるのだから油断がならない」と作品の中で先生が言っているように人間の信頼，強いては自己に対する信頼ということから倫理的な人間を追求している訳であるが，高校生には，倫理的な問題を考えさせられる書物である。又漱石の作品には一貫性があるので，『三四郎』『門』『それから』なども読んだ方がいいと思う。

『赤と黒』

この本は，王政復古時代末期のフランス政治社会に対する風刺を背景にして，庶民出の一青年が特権階級の二女性を誘惑して，この階級に復讐する政治社会小説である。主人公のジュリアン・ソレルが手段を選ばず出世を企てる。そのがむしゃらな一本気な所に読者は感動すると共に，性格を比較したくなるようである。

『ジャン・クリストフ』

クリストフの音楽ひとすじに生きぬこうとする意欲に打たれないものはないだろう。「彼の人生には巨大なエネルギーが含まれている。そのエネルギーにあてられた僕は人生に対して大いなる自信を得た」（W高校2年男子）と言う感想はもっともだと思う。彼のそんな性格や行動に類似点を見つける青年もある。

青年クリストフが自分の人間としての宿命を自覚する時，宗教について，信仰についての問題がいろいろ出て来る所もあり，宗教的情操を養う上にもいい小説ではないだろうか。

『出家とその弟子』

親鸞が弟子の唯円と自分の子の善鸞とに仏法を教える物語である。ヒューマニズムを基盤にし，恋愛至上主義的な所と仏法を割に容易に解いている所がうけるのであろう。親鸞の行為や遊びに明け暮れする善鸞，恋に浮き身をやつす唯円に対する親鸞の戒めの言葉などに，この世での暮し方を学んでいるようである。

『車輪の下』

親のまわりの人のおしつけで勉強し，州の試験に合格しながら教師の無理解，寮生活への不慣れなどから成績も下がり，ついには学校をやめ仕事を始めたが自殺へ追いやられるような結果となってしまう。高校生がこの小説を読んで一番考えさせられる点は，無意味な受験主義といった問題のようである。T学園3年女子は「進学に関する問題での悩みなど今の私達にも起こりうる結果として深く興味を覚えた。同時に，進学に対する恐れを感じない訳にはいかなかった」と感想をのべている。そして，勉強していい学校に入ったって，目的もなくただ勉強勉強ではこの主人公と同じような道をたどるのではないかと言う点で印象を受けている者もある。

（注　この論文は，教育学科の卒業論文「高校生の読書に関する研究」の一部であって，調査の部分をまとめたものである。室伏武）

子どもは物語をどう受け取るか*

秋田県高梨小学校
渡 辺 正 巳**

1 研究の意図

教師の側である効果を期待して読み物を与えても，子どもの受け取り方との間にはズレがあるかもしれない。日本読書学会で作った適書目録には，読み物ごとに性格標目が設定されているが，この教師の設定したものと子どもの実際に受け取ったものとの間にもズレがないかどうか。これは作品の一つ一つについて綿密に検討さるべきであろう。ここにはその糸口としてエリノア・エスティーズの「百まいのきもの」と新美南吉の「貧乏な少年の話」とについて調べてみた。

また第6回研究大会での私の発表の残された問題としての「単独読み」と「重ね読み・比較読み」による子どもの受け取り方のちがいはどうか。また家庭の文化的環境のちがいや，個人の生育歴，生活環境のちがいが「比較読み」にどう反映するかという点について調べてみた。

これらによって私は「比較読み」のための作品群を設定したいと考えている。

2 教師の設定した性格標目と子どもの受け取り方

「百まいのきもの」は中学年向きとなっているが，私たちの地域では高学年に適切と思われるので，5年生に与えてみた。「貧乏な少年の話」はリストになかったがぜひ入れたいと思う。標目としては，人格尊重（あざけり），親切（いじわる），長所短所（自覚），友情，忍耐の五つを考えた。

調査の方法は，作品を朗読したあと，あらすじを教師の指導も加えながら確認，そのあと，次の問を出して記入させた。第一位は3点，第二位は2点，第三位は1点として集計した。

「百まいのきもの」

強く感じたことを三つ選んでそれに①②③と順番をつけてください。

もんだい	A組 男	女
(1)自分のことは自分の力でやっていくことがたいせつなのだ。	11	5
(2)しんせつにされることはだれでもうれしいことなのだ。	27	19
(3)だれでも同じ人間なのだから貧乏だといってからかうのはよくないことだ。	44	43
(4)わるいことをしたなと気がついて，反省するのはだいじなことだ。	51	45
(5)きれいな色どりの絵や様子が目に見えるようだ。	9	7

(3)の「人格尊重」が第一位になるものと予想していたが，それよりも(4)の「反省」の方が少しく多かった。僅少の差なのでもっと広範囲にやってみないとわからない。またこれはこの「百まいのきもの」の主人公をだれとみるかとも関連をもっているようである。

はじめはワンダを主人公だとみていたのが，マディーの苦しみを味わい深めるにつれて，主人公はマディーだとの移行を示しているのである。

物語全体にあふれている美意識については，女児に，もっと多くの感銘者があらわれると思ったが，予想外に少なかった。

「反省」と「人格尊重」に重点的な感銘が示されたの

---

* How do children understand stories ?

** WATANABE, Masami (Takanashi Primary School, Akita)

は，まずまず順当というものであろうか。

「貧乏な少年の話」

もんだい	A組 男	A組 女	B組 男	B組 女
(1)友だちはみんな仲よくしなければいけないのだ。	35	37	15	22
(2)だれでも同じ人間なのだから，貧乏だといってからかうのはよくないことだ。	56	49	60	47
(3)自分のことは自分の力でやっていくことがたいせつなのだ。	20	10	12	8
(4)どんなときでもがまんすることがいちばんだいじなことなのだ。	28	28	51	27
(5)しんせつにされるのはだれでもうれしいことなのだ。	5	9	13	15

(2)の「人格尊重」はA・Bどちらの組でも第一位になっているが，これは適切と思われる。

第二位は，A組では(1)，B組では(4)となっているが，これは学級担任者の方針や性格の反映もみられるようだ。

(3)の長所短所（自覚・自己改造）が思ったより少なかったのは，物語の最後の場面のとらえ方がよくできていないことと，問題の文のまずさによるものと思われる。

このことは「あなたが大作なら弟たちとすもうをとった次の日からどうしますか。」ときいたのに対し，

わたしが大作ならこうする	A組 男	A組 女	B組 男	B組 女
(1)弟たちと仲よくする	10	12	14	9
(2)貧乏を口にしないでがんばる	5	1	3	4
(3)その他，クラスのみんなとも仲よく，その日だけでやめるなど	1	0	3	3

となっていることからもうかがわれる。

今後の問題

(1) 教師の設定した標目と子どもの受けとり方とのズレは，そんなに大きいものではなかったが，これは一つ一つの作品についてさらに検討すべきであろう。

(2) 学級による傾向については，さらに要素を分析して考えたいと思う。

3 「単独読み」と「比較読み・重ね読み」とはどのようなちがいを示したか

A学級では「百まいのきもの」と「貧乏な少年の話」B学級では「貧乏な少年の話」だけを朗読で与えた。

二つの学級の理解の深さについて調べてみた例をあげると，「あなたが大作なら氷のかけらを吉太郎にもまわしてやるか」という問に対して，

	わたしが大作ならこすうる	A組 男	A組 女	B組 男	B組 女
氷をわたす	わかってもらうため〔親切，すまなさ〕	4			
	かわいそうだ〔ひとりぼっち〕	5	4	1	2
	みんな仲よくすべきだから	2	3	2	2
	やるだけやったのだから	1	3		
	その他〔はぐれたのだ，すぎたことだ，など〕	3	6	13	11
氷をわたさない	自転車にのってにこにこ帰ってきた	2	1		
	兵太郎よりも負けた	2		2	
	吉太郎のために負けた(チームが)			1	
	その他〔にくらしいなど〕			1	1

という結果になっている。

「大作くんのその心のも一つおくにあるなにものかが大作くんをおした。」とありますが，『なにものか』というのはなんでしょうか。

「なにものか」というのは	A組 男	A組 女	B組 男	B組 女
・吉太郎をかわいそうだと思う心	4	3	1	1
・同じ人間だ。〔吉太郎だってあついのだ〕	2	2		1
・情深い強い心	3	2		
・まごころ，美しい心やさしい心	1	2	7	
・いつまでもくよくよしない心		1		
・前からの友だちだ	2		1	1
・貧乏だということ	1			1
・やるだけやった，みんながんばった			2	1
・氷	1	1	4	1
・にくんでいる心				1
・わたそうという心				4
・ワンダが絵をやった心ににている	1	2		

以上は「無記入」「わからない」を除いたものである。

B学級では「やさしい心」「わたそうとする心」のような概念的なものが目立つ。

A学級の場合も深いとらえ方とは言いえないが，B学級よりは具体的であるし，また「百まいのきもの」と関

連のある答もみられた。「情深い強い心」というのも「百まいのきもの」のワンダとの関連がうかがわれることばである。

4 「比較読み・重ね読み」のあとの話し合い

A，B両学級から学業成績上，中，下について，各2名を選定してもらった。（12名中，1名事故のため不参加）B学級からのものに対しては「百まいのきもの」を与えて，条件を同じくした。

「大作くんのその心のも一つおくにあるなにものかが大作くんをおした。」とある『なにものか』について，

(1) 『なにものか』とは何でしょうか。

S．K(下)「友だちだ」というもの。

T．T(女・中)「わたせ，わたせ」という吉太郎をにくまない心

OS(中) みんなあついのだ。吉太郎にだけやらないのはひきょうだという心。

ST(中) 心のやさしさ。

T.M. i(女・上) 友だちを思うやさしい心。

K.K(女・上) 人をいじめるのはよくないことだ。吉太郎だって少しはがんばったんだ。

I.K(上) 友だちはみんな仲よくしなければいけない。

K.A(上) 情深く強い心。

以上のようなものでつっこみがたりないものであったが，ここで「百まいのきもの」のワンダやマディーの話が出されて，

T.M(女・上) 大作は自分も前から貧乏だということでみんなにいじめられ悲しかった。それで吉太郎に親切にしたいと思ったのだ。

S.K(下) そうだ。同じことを味わったのだ。ひとりぼっちだなとわかったのだ。

T.T(女・中) のけものにされている吉太郎の心が深くわかったのですね。

というように展開された。のけものにされているワンダ，ワンダを苦しめているグループからぬけでれないでいるマディーのなやみをあわせ考えることによって，大作の心の中の『なにものか』がより深く理解されたと思われるのである。

(2) 『なにものか』を大作は前から持っていたのか。あとで持ったとすればいつなのか。

このことについては，A，B両学級をあわせて，「持っていた」（大作もからのキャラメルばこをひろわせるイタズラに加わっているのに）というのが$\frac{1}{4}$をこしており「持っていなかった」というものも，時期としては，

・幸助がキャラメルのあきばこをひろってから

・運動会がおわってから

・幸助が役場から感謝状をもらってから

などというものさえあった。

11名の中で「持っていた」とするのはS．K一名だけであったが話し合いの時はそれを訂正した。また，「いつ持ったのか」という問に対しては，

・氷をやるなといわれているとき

・吉太郎がみんなにいじわるされているとき

・みんなが目で「氷をやるな」といっている時

・吉太郎がなきべそをかいてから

というはっきりしたものが出された。

(3) 「貧乏」ということについて大作，ワンダ，マディーの三人の考え方が問題になった。

ワンダについて

・貧乏を気にしないで，さっぱりしていてよい。子どもだからそれでよいのだ。〔T．M女・上〕

これには全員同意した。

マディーについて

・子どもなのに，少し考えすぎるのではないか。〔K.K女・上，N.M女・下〕

・うちが貧乏なのは自分のせいではない。子どもには関係ないことだ。〔S.T中〕

・うちのことや，人の心については，少しは考えるのがよい。そうして考えが深まるから。〔K.A上〕

大作について

・大作のおわりの考えはよいが，前の方では貧乏を気にしすぎている。〔T.T女・中〕

ほとんどが同意した。

(4) 作者はを何いいたかったのか。

S.T(中) 反省すればツミは軽くなる。

K.A(上) 最後には反省しなさい。〔O.S中，S.K下〕

T.Mi(女・上) マディーはもっと早く勇気を持つべきだ。

K.K(女・上) わざとからかうのはよくない。

T.M(女・上) 人をからかう前にやめなさい。

このように主としてマディーに関する部面が強く出されたのは，「百まいのきもの」について，ワンダを主人公だと思いこんでいたのが「貧乏な少年の話」と比較して読み深めることによって，マディーの苦しみ，なやみこそ重要であり，マディーが主人公なのだと考えを訂正されたことによる動揺からきているのではなかろうかと思われる。(外からみれば「反省」，内からみれば「人格尊重」)

特に「貧乏」と関連しての点では，

・貧乏をためすのはよくないことだ。〔K.K女・上〕

・貧乏でも最後までがんばれ。〔S.K下〕

・貧乏など考えないでよいことをしよう〔T.Mi女・上〕

・貧乏人でもキャラメルのあきばこをひろわせるようなことをやる。〔O.S・中〕

などが出されている。

その他，作品や人物の好みには子どもたちの性格の一部がうかがわれたが，ここでは省略する。

このように，いくつかの作品を「比較読み・重ね読み」することが指導上有効だと思う。

5 要 約

(1) 適書目録の中のひとつひとつの作品について標目の有効性を子どもの実態と対比させて検討していく必要がある。

(2) 標目の有効性をたしかめるための調査の方式（例えば，どのような問いかけがいいのか）を考え，実施してたしかめるのがよい。

(3) 子どもの受けとり方にゆがみのある場合，その発生の原因をたしかめ，是正の方策を考え実践してみるがよい。

(4) 「比較読み・重ね読み」は，理解を深めるのに有効である。

(5) これを子どもの性格指導に役立てることができる。

（昭和39年9月受付）

集団読書指導の実践的考察*

大阪市立野田小学校

寺　本　俊　美**

1　はじめに

読書はもともと個々のものである。しかし問題になるのはマスコミの急速な発展である。現在のマスコミ，なかでもテレビや低俗な読み物・マンガの流行が子どもたちの生活態度読書生活に大きな変化を与えているのが現実の姿である。ここにおいて考えられることは，読書は単に著者と読者の対関係のみに止まらず，集団的・社会的な関係にても論ぜられる必要が生じてきたことである。

孤独な読書の行為は，アクティブな行為であるため，読者は図書を媒体として1対1で対決する。そこには静かな思索とともに，自然と孤独を好む人間が形成され易い。ウィリアム・ホワイト著「組織の中の人間」に，「アメリカ人は読書する人間を好まない。なぜかというと，読書する人間は内向的である。内向的である人間は非社交的である。非社交的な人間は会社では役に立ちにくい。」と，三段論法的に，読書する人を批判している。この論は少し極端な例であるとしても，今後の読書指導の上にいろいろと問題を投げかけるものと思う。

今日においては，読書は社会的な要求が強くあらわれ，

・現在の社会に生活するためには，人は読まねばならない。
・それは，今日の社会が大衆のために，大衆によって政治されているからであり，そのような政治は世論によって支持されるべきであり，その世論は読むことを中心としたマスコミによって形成されるからである。
・読書は，人が人生や社会について考えるときの手段として生かさねばならない。

と，なってきている。

マスコミの影響下の今日においては，対決するのは多数であり，大衆である。そこで要求されるものは，教養唯一的読書ではなく社会的読書である。現実逃避の読書や孤独または反抗の読書でなく，生活の豊かさと充実，社会の自由にプラスする読書なのである。

こう考えてくると，一冊の図書を数人が囲み，読み手を設けたり，あるいは輪読することによって著者の経験を伝達し合い，批判し討議することによって，より合理的に著者の経験を知り，その意図をおしはかり，それを現実的に生かそうと努力することなども大いに意義あることといえる。まして，同一図書を適切な指導のもとに学級全員が読み，読後に話し合うといった集団読書は，今日的な課題として考える必要があると思う。

2　集団読書指導をとりあげた理由と　そのねらいとするところは何か

(ア)　実態調査から

いろいろな調査を通してみて，当時（38年5月）の本校の読書環境は充分ではなく，児童の読書実態も以下に述べる如く満足すべきものでなかった。即ち，読書時間が1日平均30分以下のものが半数以上もあり，皆無のものも20%近いという状態であった。また，読む場も，家庭生活のあわただしさと親の無理解などから，ながら的な読書を余儀なくされた。したがって，読む資料も，その多くが極く短かい読み物に集中し，長文のものを読も

---

*　An attempt of reading guidance by the group.

**　TERAMOTO, Toshimi (Noda Primary School Osaka)

うとしないだけでなく，1冊の図書を最後まで読みとおす努力をおこたりがちであるように思われた。そこには，読書による思考もなく話し合うといった雰囲気も乏しかった。

さらに，テレビの急激な普及は，各家庭とも，その受入れ態勢を整える暇も与えず茶の間に押し寄せたため，それにおぼれてしまっている感が深い。一昨年（昭,38年6月）に本校の視聴覚研究グループが，毎日ＴＶと共同で実施した「テレビと読書」の調査においても，「テレビを見ながら読書することもある。」と答えた児童が61％もあるといった実態からしても，現在においては，テレビを度外視して読書指導を考えることはできないと思う。また，同調査で，「家庭における読書とテレビの視聴時間」についても，1日平均

時間	読書	テレビ視聴
0	17%	0%
30	35%	5%
1：00	27%	16%
1：30	10%	12%
2：00	7%	17%
2以上	4%	40%

との数字が，このことを裏付けしているといえる。

こういった実態をよく把握し，それに対する配慮のもとに，計画的な指導が必要となる。何らの指導することなく放置したり，実態を無視して，ただ「読むことのみ」をごり押ししては，かえって子どもたちの読書への意欲を失わせ，読書から遠ざけてしまう危険さえ感じさせる。

(イ) 指導面から

読書指導は全校的な計画のもとにとりあげるべきである。担当の教師とか，指導に関心を持つ教師のみが熱心に指導しても，一部の読書好きな児童か，その教師の担任したときの学級児童が反応を示すだけであって，全体的な指導体制がとれなければ，真の読書指導とはいえないと思う。現在における読書指導は，その領域・内容・系列・方法などにおいて，実にあいまいであるといえる。われわれは，一人あるいは数人の読書優秀児を育てあげるための読書ではなく，でき得る限り，多くの児童に，読書のもつ味を知らせるとともに，さらに一歩を進めて，積極的に良書を読み，読むことによって正しいものの見方・考え方・感じ方を体得させ，社会生活に適応する人間づくりにまで思いを至すべきである。それがためには，指導の上に系統的な軸となるべきものが必要であり，本校では，それを集団読書指導でおさえるのが，もっとも合理的であり効果的であると考えたのである。

また，38年度中に，読書環境の充実，読書活動の活発化，家庭への啓蒙と，読書面に力を入れた結果，児童の読書への関心も高まり読書量も増えてきたが，やはり読書好きなものの域を脱すことができなかったし，それにもまして，その読みとり方についても心がかりだった。

現場のわれわれは，日常教育の多忙なため機関誌で紹介される「読ませたいと思う児童図書」にさえ目を通すことができず，そのため内容について深く触れることができないで単に励ましのことばを与えるだけに止まってしまっている場合が多い。勿論，われわれは一人一人を伸ばすために，あらゆる機会を利用して読書指導をしている。即ち，児童個々の読書環境，読書興味・傾向・能力を知ることによって，適書をすすめたり，読んだ本について聞いてやったり，また，感想文を通して話しかけてやったりして，児童に読書意欲をおこさせるように考慮しているものの，もう一つ適確な，そして強力な指導が望まれてきた。

また，児童たちで，読書についての感想発表会を開いても，内容について知らないものが多いため，話し合うということができず，一方通行的なことで終ってしまっている。このことも決して無駄なことではないが，はじめにも少し述べたように，皆で話し合うといったことがどうしても必要であるとの考えに立ち至った。

小学校時代に，「この学年で」「この本を」と選ばれた一冊の図書を，みんなで読み，読んだことについて話し合うといったことが，如何に大切なことか想像にかたくない。子どもたちが卒業して，同窓会に集ったとき，そ

れらの図書についての話題が少しでも出ればその指導は実に効果があったものといえるだろう。

以上のことから

(1) 集団によって，読書の雰囲気をかもしだす。

(2) 集団によって，読書の姿勢（適書・適読）を正しくさせる。

(3) 集団によって，同一話題について考え，話し合い，心の結びつきをはかるとともに，各児に幅のある考え方を身につけさせる。

(4) 長文を読み切ることによって，読書の魅力，読書の喜びを体得させる。

などを考慮した指導がなされることによって，よりよい個々の読書生活が営まれるものと考えた次第である。

3 集団読書をどのような計画と方法のもとに実施しているか

(ア) 読書指導方針

(1) 求める読書を——読書指導の第一目標は，読書意欲をおこさせることである。集団読書のねらいも，子どもたちが自分から進んで書を求め，読もうとする意欲をおこさせることにある。

(2) 考える読書を——読書の基礎指導をより効果的に高めるために，集団で読み，味わい，話し合い，考えるといったことが必要である。それは，個人読書では求められないもの，即ち，集団により読書内容をたしかめ合い，気づき，人間どうしのふれ合いといったものにも発展できるからである。

(3) まとめる読書を——本を読み，考え，話し合うといったことだけでなく，読書したものをまとめ，整理してこそ，次の読書がよりよいものに向上する。こういった考えから，読書のまとめ整理の指導により，次から次へと，自主的な読書活動が展開されていくようにと心を配ることが大切である。

(イ) 資料の選定

読書の喜びは，一冊の書物を読破したことにより得られるとの考えから，単行本，それも比較的長文のものを選定の対象とした。そして，その図書は文学的なもの，物語，伝記とした。選ばれた図書は，学級児童数（平均40人）分の複本とするため，次のような選択基準を設けて，その選定には，最大の留意をもってあたった。

図書選択基準（昭和39年）

観点		低学年	中学年	高学年
読書力、読書態度を育てる	読書内容	・すじがわかりやすく，変化があり，発展性があるもの	・すじをおう楽しさがあり，読み味わう態度を育てられるもの	・すじのおもしろさを持つもので，感動をうけ，主題を読みとれるもの
	読書態度・読書力	・見て楽しみ，読む喜びにつながるもの ・読むことによって言語生活の拡充をはかれるもの	・筋をつかみ，内容のおもしろさを見出す力を伸ばすもの ・思考力を高められるもの	・人物の行動，心の動き，すじの変化を楽しんで読めるもの ・考え方，批判力を育てられるもの
読書による人間形成	心情面	・人間や動植物への愛情を育てられるもの ・正しいもの美しいものへのあこがれがみたされるもの ・小さいもの，弱いものでも力強く生きていく勇気がえられるもの	・家族愛，動物愛，友情，自然に対する愛情を深められるもの ・正しい冒険心や探究心を伸ばすもの ・ユーモアを解し，明るい生活をいとなむ感情を育てられるもの	・家族愛，動物愛，友情を高められるもの ・正しいもの美しいものを愛し，不正をにくむ気持ちを養えるもの ・子どもの夢（冒険心・探究心・偉人に対するあこがれ）を育てるもの ・困難にたえて，最後まで辛抱強くやりとおす気持ちを養えるも

				の ・ユーモア，とんちを解する心を育てるもの
	生活面	・自分や自分以外の生活に目をひからすもの ・社会生活に適応できる力を養えるもの ・自己をひきあげようとする気持ちをいだかせるもの	・理想にむかって生活する意欲をはぐくむもの ・正しく判断し，自主自律の生活への意欲を育てられるもの ・自他の立場を尊重する態度を育てられるもの ・社会性を伸ばし，自己の果す役割りを考え平和を愛するよろこびをもたせられるもの	・自分の長所や短所をみつめて，よりよい生活をするのに役立つもの ・なかまづくりの意識を育てられるもの ・社会的なつながりをわからせ，社会に適応できる力を育てられるもの
	思考面	・空想をえがかせ，想像力をのばせるもの	・すじみちを正し，合理的な考え方やみかたを深めるもの	・ものごとのすじみちを順序よく考える力を育てられるもの

以上のように，よりよき資料を児童に与えようと，話し合いを重ねた次第であるが，その要点を記してみると次のようになる。

(1) 児童の読書実態，能力をよく把握する。（良書よりも適書を）

(2) 長編のもので，読解面に抵抗の少い図書。

(3) 問題点を含むもので，話し合うのに適した図書

(4) 心情を豊かにするもの。（感動，感銘を与えるもの）

(5) 権威ある団体がすすめる図書も参考にする。

そして，読み手をぐんぐんひきつけていき，もっと読みたくなるものであり，教育性があるものをと考えた。こういった文学的な読み物は，他の分野の読み物への基礎活動にも，最も適しているとの観点をもったのである。

このようにして選んだのが次の資料である。

1年

アンデルセン童話（徳永寿美子訳）9月後—10月前

日本のむかし話（川崎大治著）10月後—11月前

赤ちゃんになったおばあさん（田中豊太郎著）12月後

五つのエンドウまめ（狩野省三訳）2月後—3月前

2年

フランダースの犬（山本藤枝訳）6月後—7月前

にんぎょ姫（山本藤枝訳）9月後—10月前

青い鳥（野長瀬正夫訳）10月後—11月前

ニルスの旅（山本藤枝訳）1月後—2月前

3年

小公子（山主敏子訳）4月後

家なき子（土家由岐雄訳）6月前

宮沢賢治（伊藤佐喜雄著）10月前

水の子トム（宮脇紀雄編）2月後—3月前

4年

たつの子太郎（松谷みよ子著）6月後—7月前

山しょう大夫（青木達雄著）11月前—後

エルマーのぼうけん（渡辺茂男著）12月後

野口英世（馬場正夫著）1月後—2月前

5年

子鹿物語（富沢有為男訳）7月前—後

南の浜にあつまれ（香川茂著）10月後—11月前

北里柴三郎（平井芳夫著）12月後

サランガの冒険（吉田甲子太郎著）3月前

6年

ぼくらの出帆（那須田稔著）6月前

天平の少年（福田清人著）7月前

シュバイツェル（波木居斉二著）12月後

誰も知らない小さな国（佐藤暁著）1月前—後

(ウ) 指導計画

集団指導は，いろいろ考えられるが，クラス単位の学習の場で，読書指導の中核を通したいとの考えから，国語学習の物語教材の発展の時間をこれに当て，その時間

は各学年とも教材図書4冊で20時間程度をとった。即ち，同一時間に，同じ場所で，同じ資料を用いて読書し話し合ったのである。

それは固苦しい教科書ではなく，一部分を抜粋したりダイジェストされたものではなく，子どもたちが日常親しんでいる図書をもとにしてである。

このようにして，全校的な読書指導計画の中核に集団読書指導をおき，その周辺に自由読書としての個々の指導計画を配したのである。そして，各学年ごとの指導計画，各題材ごとの指導計画をたて，系統的な指導をねらったのである。その一例は別掲のようである。

第2学年	題材	ニルスの旅	書名	ニルスの旅	著者	ラーゲルレーフ 山本藤枝
					発行所	ポプラ社
配当時間	5時間	期間	自 1月中旬 至 1月下旬	関連	かもとりごんべえ （日書2年2）		
目標	1 文章に即して書いてあるとおりに読みとる 2 順序をたどって意味をとる 3 好きなところやおもしろいところを抜き出す 4 やさしい読みものを自分から進んで読むようにする 5 ニルスの変化を読みとり考えさせる						

指導内容	時数	指導上の留意点
1 導入と本を読む	1	1 ・お話の生まれた国，原作者について話して聞かせる ・ニルス少年になったつもりで少年の心の移り変わりを読みとらせる
2 ニルスの旅を読む	2	2 読みのおそい児童には指導者が読んで聞かせる。
3 順序をたどって読みとったことを書く	1	3 あらすじや登場者の動きをだいたいつかませる
4 ニルス少年の心の動きを中心に話し合う ・小人になる前（される前）のニルス ・小人にされたわけ ・苦しかったこと ・親切がわかるようになりつぎつぎに親切にしたこと ・ニルスのまほうはなぜとけたか	1	4 その時々の事情や気持ちを考えさせる ・心に残る文章のところは朗読させる ・他のために働くニルス，その動機を読みとらせる ・自分の考えを読書ノートに書かせる

4 集団読書指導を実施して どのような効果および問題点があったか

集団読書指導にとり組んで2年に満たない現在において，その効果を云々することはできないが，児童の読書量，読書姿勢は著しく向上したといえる。実施前と比べる目的で行った中間調査において，「前年度に比べて，本の読み方について変化があったか」との質問に対して，児童自身は78%が，親も69%が「変わってきた」と答え，「どのように変わったか」との問に対して，

○読むのがおもしろくなった。
○たくさん読むようになった。
○読書時間が長くなった。
○長文の本をよく読むようになった。
○本を大へん欲しがるようになった。
○本の話をよくしてくれるようになった。

などが答として述べている。

また，読書力テストの結果においても，その偏差値分布を昭和38年度と40年度を比較してみても，はっきりと右よりの傾向が見られ段階の向上を示している。

「図版省略，編者」

以上はもちろん，集団読書指導のみでなくそれを中核とした幅の広い読書活動，即ち，個々の自由な読書活動とその指導，図書館利用指導の充実，読書による道徳指導,学校と家庭を結ぶ読書活動（母親の読書活動の推進，全校読書日の設定，図書館母親文庫の開放，月刊読書だよりの発行など）によるものといえる。

しかし，問題点も多く，その主な例を挙げると，

(ア) 指導者の問題

指導者自身が読書を愛し，読書のすぐれた価値をじゅう分に認識するとともに，とりあげた資料を読みこなし，指導のねらいを確立し，計画を正しく樹立してこそ，集団読書の有無が決まるといえる。指導者たるものは，子どもたちに絶えず読書意欲を持たせようとする態度を持つとともに，あせらずに努力しつづけることが読書指導を成功させる鍵といえよう。

(イ) 学習者の問題

集団がいくら小さくても，そして，どのように等質にしても，そこには自然に能力の差ができるものである。そこで能力差を考えた指導を配慮する必要がある。しかし，集団指導の中の読書で，能力差のある学習者がしげきを受けて，能力以上の読書ができているといった事実も見逃がせない。まず，能力差がどのくらいであるかを発見診断して，その原因を探究しなければならない。そして，集団で意欲づけるとともに，個々の原因を治療していく必要がある。

5 むすびに

マスコミと進学戦争の渦巻く中で読書の味を体得させるために，集団読書は今日的な方法であると考える。それによって誘発された読書意欲が，適切な指導のもとに習慣化されることを願うのである。そして，「読み」が，その語源といわれる「よく見る」と，いったところから，表面的な人間ではなく，思慮のある奥深い人間としての生き方をも体得して欲しいと願うのである。われわれ指導者は，読書により得る知識的実利的なものより，どちらかというと，読書機能の一側面的生命，生活充実態度（＝人間形成）の方を重視すべきであると思う。

盲児の点字触読に関する発達的研究*

東京教育大学

佐藤泰正**

【はじめに】

ブレイユの点字の発明は盲教育を大きく前進させた。しかし点字に関する科学的研究はというとまだ未開拓の面が非常に多い。とくに点字触読の問題は，その研究領域も極めて広く，未解決な問題が山積されている。もちろん，私たちの先輩は点字触読の問題に鍬をいれてくれた。ドイツではヘラー(注1)，アメリカではマックスフィールド(注2)，我国では草島時介(注3)がいる。しかし，これら先輩の研究にも拘わらず点字触読の問題には未開の地が沢山ある。筆者はこれら先輩のあとを受けて，少しでも未開の地を耕やしたいと考えた。そして盲教育において重大な役割を演じている点字問題に何かを残したいと考えたのである。

ところで，筆者が点字触読の問題を扱った目的は大きく二つにわけられる。1つは盲教育の科学的基礎づけという面から，盲教育の中枢をなす点字問題の科学的検討を行い，盲児の点字指導の科学的裏づけをしたかったためである。もう1つは，点字触読という，いわば，盲人の読みを通して読書の科学的研究を行いたかったためである。これまで，筆者は正常人の読書に関する研究を長年手がけ，その成果は著書論文に報告した。しかし，正常人の読書，いわゆる，目による読みが中心であった。盲人の読みは触覚によって行われ，手の指が用いられる。末梢的な感覚器官こそ異なれ，読みの本質は違わないであろう。読書の科学的研究を行うためにも盲人の点字触読は大きな意味をもっている。盲人の読みを通して，読書問題の科学的究明を行いたかったからである。

以上筆者の点字触読に関する研究の大きな目的をのべてきたが，こうした目的のもとに今後研究を進め，盲人の点字触読に関する全貌を把えたいと念じている。今後引続いて行われるであろう点字触読に関する筆者の研究は上述の目標のもとに行われる一連の研究である，

さて，上にのべたような盲人の点字の触読に関する研究の一環として，今回は盲人の点字触読の発達に関する研究をとりあげることにした。

§1 盲児の点字触読能力発達に関する研究の展望と本研究の意義

盲児の点字触読能力に関する研究をはじめて手がけたのはヘイス(注4)であったが，彼はいろいろな学力検査を盲児に試みるという意味で読方のアチーブメントテストを盲児に試みることを提案し，その際盲児は点字読みに時間がかるからテスト時間は正常児の3倍位が適当だとのべている。また教示を丁ねいに行うべきだと主張した。その後，盲児の触読能力についていろいろ研究が行われた。1927年，マックスフィールド(注2)はグレイの音読テストとスタンフォード読方テストを点字版になおして，パーキンス盲学校の児童，1年から8年までに試みた。前者は，音読の速度のほかに読み誤りの分析ができるようになっているし，後者は黙読テストであり，下位検査として，語い，文の読み，節の読みがあり，時間制限法になっている。しかし，時間は盲児に実施するためにつぎのように長くした。語いは正常児用6分を24分に，文の読

* Developmental study on Braille reading of blind children

** SATO, Yasumasal (Tokyo Univ. of Education)

みは6分を24分に，節の読みは16分を54分にした。盲児は点字読みに時間がかかるし，答案を点字で書くにも時間がかかるからである。その結果，音読テストでは読速度は正常児の1.3倍の時間がかかり，読み誤りの平均では正常児と異らなかった。そして，学年標準では正常児と盲児の間にはほとんど差はなかった。しかし盲学校の児童は年令が高いから年令標準にてらせば盲児の音読能力は遅れていることになる。しかし，実際には点字学習期間が少ないから当然であろう。黙読テストの方は正常児にくらべて，小学2年，3年ではよいが，高学年になると正常児と変らない。盲児は生活年令が正常児より高いから，年令基準では遅れていることになる。これも学習期間が少ないからやむを得ない。もっとも，検査実施の時間をのばしたのだから，読みの速度は正常児が速いことになる。

カルドウェル(注5)がやはり，スタンフォード読み方アチーブメントテストを盲児34人と正常児に行った。盲児の場合，時間を延長したが，読みの速さは盲児は正常児の3～3.5倍もかかっていた。時間を長くかけて行われた結果は学年レベルでは盲児は正常児と差はないが，生活年令の平均は正常児が12.6才に対し盲児は17.9才で，かなり開きがあった。

アベル(注6)が盲学校の5年80人，6年83人について調べた結果では学年レベルでは盲児が正常児よりよかった。もっとも時間は延長してあり，生活年令も盲児は5年13.4才，6年14.8歳で，正常児より高い。

これらの外国の研究に対して，我国では筆者(注6)が1953年に行なった研究がある。関東地区の5つの盲学校の児童生徒（小学4年～中学3年）計195人を用いた。うちわけは小4　37人，小5　33人，小6　36人，中1　31人，中2　28人，中3　30人，視力欠損別では全盲 126，準盲26，弱視28人，点字を視読した弱視15人である。そのほか，正常児中学2年生48名を比較のために用いた。読書力検査の材料は小学3年程度の教科書その他から取材し，合計30題の問題を作った。一題は1パラグラフ約100字である。各題の終りには被験者が正しい答を爪で消す選択肢法の質問がある。テスト時間は15分，結果は正答数，正確度がわかるようになっている。同じものを謄字印刷して正眼児にも用いた。

結果の主なものをのべると，①読書発達は点字学習期間との関係が最も高く，生活年令との関係は低い。⑵点字学習開始より4年目までの進歩が著るしい。③男女差はみられない，などが得られた。この時の研究の問題点としておこったのはやはり，盲学校児童の個人差の大きいことだった。たとえば，盲学校小学部4年の生徒は37人を用いたが，点字学習の経験はまちまちであり，もう少し規模を大きくして，点字学習期間と在籍学年が一致した被験者を多量に用いる必要性を痛感した。

その後，佐藤光義(注9)が盲学校の児童生徒小学5年～高等部1年まで22名を用いて調べた研究がある。触読指の2点閾，知能検査，国語学力と読書力検査（筆者の作成したもの）との関係を調べた。その結果小学部では2点閾との相関が高いが，中高等部では学力，知能との相関が高くなる。

現在までに行われた盲児の触読能力に関する諸研究を眺めてみるとき，いろいろの問題が投げかけられる。これまでの研究の問題点として，①被験者の数が少ないこと，たとえば，過去の研究では一つの盲学校か数校の盲学校の児童を対象にしている。②被験者が多い場合でも一定の学年だけをとっていて，触読能力の発達を系統的，体系的に調べていない。③被験者を細かく分析して（例えば，点字学習期間，視力，失明年令等）結果を考察した研究がほとんど行われていない。

そこで，筆者は，①できるだけ被験者の数を多くすること。（本研究は我国の盲児小学1年から中学3年までの約35％を被験者として選んだ。）②小学1年から中等3年までの全学年にわたり体系的，系統的に調べること。③被験者の個人的条件をできるだけ詳しくしらべ，できるだけ条件を整えることを考えた。

§2　本研究の目的と方法

本研究は盲児の点字触読に関する発達的研究を行い，

盲児の点字指導の基礎資料を得るにある。本研究は点字触読の発達を読速度を中心に研究を進めることにした。

(1) 触読検査

盲児の点字触読の発達を研究する上にまず第1に重要なことは触読材料の問題である。触読材料についても本研究は触読能力の発達を研究することを目的とし，小学校1年から中学3年までを考察したいのだが，同一の触読材料を全学年に用いることは実際上困難であり，テストとしての妥当性もかけてくる。そこで，つぎの3種のテストを作成することにした。すなわち，①小学校1年～3年（低学年）②小学校4年～6年（高学年）③中学校1年～3年である。

つぎに触読検査の問題であるが，できるだけ妥当性，信頼度を高めることが必要であり，精練された文章が望ましい。そこで，筆者が作成した総合読書能力診断検査(注10)の問題からえらぶことにした。この各問題はいずれも精練された文章が選ばれ，正常児を対象に妥当性，信頼度が検討されている。したがって，これらの問題を触読検査の問題として用いることは最も妥当な方法であり，さらに正常児との比較を行う上にも都合がよい。

このようにしてできあがった触読検査はつぎのようである。

1. 小学校1年～3年（低学年用）30題
2. 小学校4年～6年（高学年用）35題
3. 中学校（1年～3年）用　32題

各問題それぞれいくつかの文からなるパラグラフで，うしろに理解度を調べる選択肢法による質問がある。理解度といってもむづかしい問題ではなく普通に読んでいればみな正答が可能なものである。つぎに小学校1年～3年用，小学校4年～6年用，中学校用の各々の問題の一例をあげておこう。

小学校1年～3年用

〔1〕 みなとです。白い　大きなふねが　いかりを　おろしています。ここは

(1)やま　(2)みなと　(3)まち

小学校4年～6年用

〔1〕 あき地で子どもたちがシーソーにのってあそんでいました。どの子のかおもうれしそうに，にこにこしていました。子どもたちがのっているのは

(1)バス　(2)すべりだい　(3)シーソー

中学校用

〔1〕 汽車はゴーッという音をたてて，トンネルにはいりました。「夜になった。夜になった」と弟がいいました。いま汽車が走っているのは

(1)トンネル　(2)野原　(3)鉄橋

以上の3種類の検査を作成したのち，これを点字印刷にした。普通の点字印刷であれば，表・裏に両側印刷を行うのであるが，読みの能率があがることと，回答の作業が裏面の点字印刷を読みにくくしないために片面印刷にした。のちにものべるが，問題への回答は正しい答の記号を爪で消す作業を行わせたから，その作業が裏面の印刷を読みにくくするかも知れないという危惧からである。なお目で点字を読んだものについては鉛筆で正しい答の記号に○をつけさせた。また。検査用紙は点字用紙を6～8枚を横にセロテープで縫ぎ合わせてあり，机の上に3ページ（3枚）が並べられるようにし，1ページ終るごとに右から左へ送って行くようにしてある。なお，本テスト結果は試行数、正答数，正確度の3つがでるようになっている。そして正答数をもって触読速度とし，触読能力の目やすとした。

(2) 被験者

被験者は全国盲学校の小学1年から中学3年までのなかから，第1表のように人数を選んだ。当該年度における盲学校小学部1年から中学部3年までの人数は合計5329人であるが，そのうち点字を読むものは3623人になる。本研究の対象となった人数1290名は約35.6%にあたる。なおこれらの被験者は21の盲学校の児童生徒で，学校名はつぎのとおりである。

第1表A　被験者数

		男	女	計
低学年	1	23	24	47
	2	40	47	87
	3	55	63	118
	計	118	134	252

高	4	64	64	128
	5	86	55	141
学	6	95	70	165
年	計	245	189	434
中	1	121	86	207
	2	111	87	198
	3	97	102	199
学	計	329	275	604
合	計	692	598	1290

1. 札幌盲　8. 八王子盲　15. 京都府盲
2. 岩手盲　9. 千葉盲　16. 兵庫盲
3. 秋田盲　10. 富山盲　17. 山口盲
4. 宮城盲　11. 名古屋盲　18. 松山盲
5. 茨城盲　12. 三重盲　19. 熊本盲
6. 栃木盲　13. 和歌山盲　20. 長崎盲
7. 埼玉盲　14, 大阪府盲　21. 鹿児島盲

なお，本検査は触読検査であり，一応手で読むことが原則であるが，盲学校には視力のある弱視児童がいて点字を目で読んでいる。彼らは点字を手で読むより目で読むことに慣れていて，実際，学習上も目で読んでいるため，これらの児童には目読みを行わせた。したがって，手で読んだものと目で読んだものの人数はつぎのようになる。

第1表B

		目読み	手読み	合　計
低	1	6	41	47
	2	6	81	87
学	3	7	111	118
年	計	19	233	252
高	4	17	111	128
	5	11	130	141
学	6	9	156	165
年	計	37	397	434
中	1	16	191	207
	2	29	169	198
学	3	18	181	199
校	計	63	541	604
合	計	119	1171	1290

他方，盲学校には中途編入者が非常に多く，本研究においても，調査人員1290名中，手で点字を読んだもの1171名であり，そのうち，小学1年から盲学校にはいっていたものは828名となり，他の343名は普通学校からの中途編入者であり，編入時まで，点字を学習しておらず，したがって点字学習期間が小学校1年から盲学校に入学したものにくらべて少ない。だから，同一学年であっても点字学習期間はまちまちであり，触読能力の発達は点字学習期間との関係が大きく，したがって，まず小学校1年から盲学校にはいっていた828名について各学年毎の平均及び標準偏差を求めた。

(3) 教示，実施時期，児童調査表

本触読検査の教示は別紙のように行った。

別紙　触読能力テストの実施手引

A　テスト実施前に準備すること

1. テスト用紙には前もって氏名だけを書いておいて下さい。これはのちの児童調査表をもとに整理する場合にどの用紙が誰のかをしるためのものです。
2. ストップウオッチ（もしくは正確な時計で秒までわかるもの）
3. 検査室はなるべく静かでゆったりとした部屋を選び，机は少くとも点字紙を3枚並べておける程度の幅をもち，各々の机は間隔をあけておき，検査の進行にともなって解答用紙を左方にたらすことができるようにしておく。
4. 答を消すのにつめでもよいし点筆の頭でもよい。点筆を使うものは点筆を出してもたせる。
5. 本テストは集団テストであるが1回に1クラス，10人以内が望ましい。（教示監督がゆきわたる。）

B　「教示」

このテストは皆さんがどれだけ早く正確に点字の文章を読むことができるかを調べるものです。これから次の注意をよく守って一生懸命やって下さい。

〔といって，テスト用紙を配布する。テスト用紙を配付したら，全部広げさせ3枚目以後は，机の右下にたれさせる。（これは，ページめくりに，時間をかけさせないためです。）そして，最初の1頁だけに手をふれさせる。〕

まず，練習と書いてあるところを見て下さい。（練習とい

うところをさわっているかをたしかめる）下に短いお話が書いてあってあとに問題があります。皆んなで読んでみましょう（一斉読みをさせる）。(イ)(ロ)(ハ)のうちどれが正しい答でしょうね，(答を待つ)そうですね。(ハ)の答が正しいのですね。正しい答の記号をつめか点筆の頭で消して下さい。（やり方がわかったかをたしかめる）やり方はわかりましたね。こういうお話がつぎの頁から沢山あります。声を出さないで黙って読んで下さい。まちがえないよう早く読んでいきます。ゆっくり読んでいては駄目です。はじめにお話を読んでそれから答についている記号を消して下さい。はじめに答を読んであとからお話を読んではいけません。まちがって消したときはまちがってけした記号のうしろの文字を1つだけ消して正しい答の記号を消して下さい。（間違って消した場合のなおし方を徹底させる）では，つぎの頁を開いて，「用意始め」——正味小学校高・低8分，中学校7分——「やめ」といってやめさせる。

検査実施時期は昭和38年10月下旬から11月上旬であり，したがって点字学習期間は38年度の2学期として計算した。

また，盲児の触読能力をいろいろの角度から分析したり，触読能力に影響する諸項目との関係をみるため，児童調査表を作り，担任教師に記入してもらった。点字学習期間，視力，視力欠損年令，知能，国語の成績などが主な項目である。

(3) 整理

すでにのべたように盲学校には中途入学者（点字学習期間の短いもの）がいたり，点字を目で読むもの（これにも中途入学者がいる）がいるなど，またそれらが点字の読みに大きな影響をあたえるので，結果の整理にあたっては被験者を大きくつぎの三種類にわけて整理を進めることにした。

① 小学部1年から盲学校に入学し，当該児童生徒の学年と点字学習期間が一致しているもの，これに相当する人数は 828名であった。

② 中途編入者，したがって児童生徒の学年学期と点字学習期間が一致してないもの，これに相当する人数は343名であった。

③ 点字を目で読んだもの（小学1年から盲学校に入学したものもいれば，途中から盲学校に編入したものもいる）これに相当する人数は119名であった。

本報告においては①のグループ，すなわち小学部1年から盲学校に入学し，点字学習期間と児童の在学年学期が一致するものについて，結果をのべることにする。

§3 研究結果の概要

(1) 点字触読力の発達

盲児の点字触読力は学年を追うにしたがってどのように発達していくであろうか。これを純粋にとらえるためには小学部1年から盲学校に入学し，点字学習期間が学年と一致しているものをとらえることが必要になる。なぜなら触読力は点字学習期間に大いに影響されるからである。

1. 小学部1年～3年

まず，小学部低学年用検査を用いた小学1年から3年までの結果を眺めよう。第2表に示すように，得点平均は1年2.44，2年6.50，3年8.96という数値を示した。各学年間の平均に有意な差があるかどうかを検定するため，まず，1年と2年，2年と3年の間の分散の差の検定を行った。前者の分散の差は$F_0$1.79＞1.61($P_0$0.05)（以下有意水準0.05である）となり，後者の分散の差は$F_0$1.51＞1.45となり，いずれも分散の差は有意であった。そこで各学年の平均の差をコクランコックスの法によって検定を行ったところ，1年と2年の平均の差は$t_0$5.158＞基準t2.009 （P0.05）（以下有意水準0.05である）となり，2年と3年の間の差は$t_0$3.003＞基準t1.989となって，いずれも有意な差がみられた。とくに，1年と2年の間の発達が2年と3年の間の発達に比して

第2表 点字触読の学年発達 小学低学年

学年	1	2	3
M	2.44	6.50	8.96
SD	3.55	4.78	5.88
1分間の読字数	13.65	42.93	59.96
正確度	79.0%	85.0%	92,3%
人数	41	76	95

著しいことがわかる。

なお，これを1分間の読字数になおしてみると，1年は13.65字，2年は42.93字，3年は59.96字となり，1年と2年の間の進歩が大きいことがわかる。2年は1年の3.5倍の速度，3年は1年の4.39倍の速度になる。

つぎに，読みの正確度は1年79.0%，2年85.0%，3年92.3%，となり，学年とともに正確度が高くなっていく。3年では90%以上になり，いわば正確に読むようになる。各学年間の有意差の検定を x^2 で行ってみると，1年と2年の間の $x^2=2.77<3.84$ $(P=0.05)$ となり，2年と3年の間の $x^2=25.54>3.84$ $(P=0.05)$ となり，1年と2年の間は有意な差がみられないが，2年と3年の間に有意な差がみられた。

2. 小学部4年～6年

小学部高学年用検査を用いた4年から6年までをみよう。各学年の得点平均は，4年10.1，5年10.82，6年11.46という数値を示した。（第3表）4年から5年までの進歩と5年から6年までの進歩は同じようにゆるやかであった。各学年の平均の間に有意な差があるかどうかを検討するため，まず，4年と5年，5年と6年の間の分散の差の検定を行った。小4と小5の間の分散の差は $F_0 1.43>1.39$，5年と6年の間の分散の差は $F_0 1.01<1.39$ となり，4年と5年の間の分散の差は有意であるが，5年と6年の間の分散の差は有意でないことがわかった。したがって，各学年間の平均を検定するため，4年と5年の平均の差はコクランコックスの法，5年と6年の間はt検定を行なった。（以下，平均の差の検定については分散の差の検定の結果にしたがって，検定の方法をかえた。）その結果4年と5年の間の平均の差の検定では $t_0 1.029<$基準t 1.980 となり，5年と6年の間の差は $t_0 0.607<1.960$ となり，いずれも有意な差はみられなかった。

第3表　点字触読の学年発達　小学部高学年

学　　年	4	5	6
M	10.10	10.82	11.46
SD	4.40	5.26	5.24
1分間の読字数	104.26	110.64	118.00
正　確　度	91.5%	93.8%	93.1%
人　　数	95	100	103

なお，1分間の読字数になおしてみると，4年は104.3字，5年は110.6字，6年は118.0字ということになり，各学年間の進歩はかなりゆるやかになる。

つぎに，読みの正確度は4年91.5%，5年93.8%，6年93.1%となる。各学年の間の差を x^2 検定によってみると，4年と5年の差は $x^2=4.19>3.84$ $(P=0.05)$ となり，5年と6年の間は $x^2=0.43<3.84$ $(P=0.05)$ となり，4年と5年の間は有意差がみられるが，5年と6年の間は有意差がなかった。それにしても，4年，5年6年と大体90%以上の正確度を保っていることは，これらの学年において一応正確に読むという態度は固定してきたと考えられる。

3. 中学1年～3年

中学部用検査を行なった中学1年から3年までの結果をみよう。まず，得点平均は中学1年は9.70，2年11.98 3年11.48という数値を示した。（第4表）各学年の平均の差を検定するため，まず，各学年間の分散の差の有意差検定を行った。中1と中2の分散の差の検定の結果 $F_0 1.09<1.36$ となり，中2と中3の分散の差の検定では，$F_0 1.05<1.39$ となり，各学年の間の分散の差はいずれも有意でないことがわかった。そこで，各学年間の平均の差を検定したところ，中1と中2の間は，$t_0 3.475>1.960$，中2と中3の間は $t_0 0.552<1.960$ となり，中1と中2の間の平均の差は有意であったが，中2と中3の平均の差は有意でなかった。このことからも，中1と中2の間の進歩の著しいことがわかるが，中2と中3の間は進歩がみられない。

第4表　点字触読の学年発達　中学部

学　　年	1	2	3
M	9.70	11.98	11.48
SD	4.78	4.98	5.10
1分間の読字数	118.42	150.61	142.97
正　確　度	93.7%	94.9%	92.7%

人	数	119	102	97

なお，1分間の読字数になおしてみると，中1は118.4字，中2は150.6字，中3は143.0字となり，中1と中2の間の進歩がみられる。

つぎに，読みの正確度についてみると，中1が93.7%中2が94.9%，中3が92.7%という数値を示している。ほぼ一定した正確度を示している。各学年の間の正確度の差を x^2 検定を行ってみると，中1と中2の間は $x^2=1.72<3.84$ $(P=0.05)$ となり，中2と中3の間は $x^2=5.22>3.84$ $(P=0.05)$ となり，中1と中2の間には有意差がみられないが，中2と中3の間には有意差がみられた。

4. 点字触読能力発達のまとめ

以上の結果を総合して小学1年から中学3年までの学年発達を考えよう。ただし，小学校低学年用，高学年用中学校用の三つはそれぞれ問題が異なり，小学校高学年用は小学低学年用より，中学校用は小学校高学年用より多少，読書材料の困難度が高くなっているので，小学3年と小学4年の間，小学6年と中学1年の間にギャップがあるが，しかし触読力発達の目やすは得られる。第5表は各学年の1分間の読字数と正確度を示してみた。

第5表　点字触読能力の発達（読字数・正確度）

	読字数(1分間)	正確度	人数
小 1	13.7字	79.0%	41人
小 2	42.9	85.0	76
小 3	60.0	92.3	95
小 4	104.3	91.5	95
小 5	110.6	93.8	100
小 6	118.0	93.1	103
中 1	118.4	93.7	119
中 2	150.6	94.9	102
中 3	143.0	92.7	97

この表をみてもわかるように 小1　13.7字，小2　42.9字，小3　60.0字，小4　104.3字，小5　110.6字，小6　118.0字，中1　118.4字，中2　150.6字，中3　143.0字という値を示し，学年とともに読みの速度が速くなることがわかる。

他方，正確度は，小学1年79.0%，小学2年85.0%，小3　92.3%，小4　91.5%，小5　93.8%，小6　中1　93.7%，中2　94.9%，中3　92.7%となり，小学3年以降は90%台を保持し，正確に読むようになることを示している。

(2) 性差

点字触読力の男女差を眺めたのが第6表である。

第6表　点字触読の学年発達と性差

			M	SD	N
小低	1	男	2.60	3.28	20
		女	2.29	3.76	21
	2	男	5.56	5.14	36
		女	7.30	4.28	40
	3	男	8.28	6.18	46
		女	10.58	5.6	49
小高	4	男	10.36	4.68	44
		女	9.88	4.14	51
	5	男	11.36	5.96	61
		女	9.98	4.58	39
	6	男	10.66	5.12	61
		女	12.60	5.20	42
中学	1	男	8.9	4.68	74
		女	10.54	4.72	45
	2	男	12.40	4.92	55
		女	11.48	5.08	47
	3	男	10.84	4.12	48
		女	12.14	5.88	49

得点平均は小学1年の男子の2.60に対し，女子は2.29小学2年では男子5.56に対し，女子は7.30，小学3年では，男子8.28に対し，女子10.58となる。小4では男子10.36に対し，女子は9.88，小5では男子11.36に対し，女子は，9.98，小6では男子10.66に対し，女子は12.60となる。つぎに中学部についてみると，中1では男子8.9に対し，女子10.54，中2では男子12.40に対し女子は11.48，中3では男子10.84に対し，女子12.14であった。

各学年の男女の平均の差を検定するために各学年の男女の分散の差の検定を行なった。結果，Fの値は以下のようになった。

小 1　1.31 ＜ 2.15
小 2　1.44 ＜ 1.71
小 3　1.22 ＜ 1.61
小 4　1.28 ＜ 1.63
小 5　1.68 ＜ 1.67
小 6　1.04 ＜ 1.59
中 1　1.03 ＜ 1.56
中 2　1.07 ＜ 1.58
中 3　2.04 ＜ 1.62

この結果から，分散の差が有意であったのは，小5と中3であり，したがって小5と中3については平均の差を検定する方法としてコクランコックスを用い，他はt検定を用いた。その結果男女の平均の差は小1では $t_0$0.273<2.021，小2 $t_0$1,582<2.000，小3 $t_0$1.884<1.980，小4 $t_0$0.527<1.980，小5 $t_0$1.292<基準t2.010，小6 $t_0$1.867<1.980，中1 $t_0$1.822<1.980，中2 $t_0$0.929<1.980，中3 $t_0$1.251<基準t2.021，となり，各学年とも男女の間に有意な差がみられなかった。

以上，点字触読力における各学年の男女差を眺めたがどの学年においても男女の間に有意な差はみられない。なお，正眼児の男女差について調べた筆者の研究でも小学4年から中学3年までの間に有意な差はみられなかった。（注11）

§3 正眼児の読書発達との比較

盲児の点字触読の発達は正眼児の読書発達とくらべてどうであろうか。本研究に用いた読書材料は前述したように総合読書力診断検査の読速の部であるので，正眼児との比較がある程度可能である。しかし，総合読書力診断検査の場合は検査時間が3分であるのに対し，本検査は小学部は8分，中学部は7分にしたので，厳密にいえば，時間が等しくない。しかし，一応機械的に時間を等しくしたと仮定して各学年ごとに1分間の読字数を求めた。結果は第7表に示すようになる。盲児は正眼児に比べて，小1　9.1倍，小2　4.5倍，小3　3.9倍，小4　3.6倍，小5　3.9倍，小6　4.1倍，中1　3.9倍，中2　3.4倍，中3　3.8倍ということになり，小1が正眼児との差が最も大きい。ついで小2であるが，小3以後は一応3倍～4倍ということになる。

第7表　正眼児と盲児の比較

		1分間字数	
		正	盲
小	1	124.7	13.65
	2	191.8	42.93
	3	231.6	59.96
	4	373.4	104.26
	5	433.4	110.64
	6	486.7	118.00
中	1	466.3	118.42
	2	506.7	150.61
	3	543.5	142.97

このように小学部1年においてとくに正眼児に比して読書力が劣っていることはいろいろの問題を投げかけるであろう。小学3年以降は一応3～4倍を保持しているし，Hayesらの，盲児の読みの速さは正眼児の3倍～3.5倍を必要とするという結果と大体において一致する。

ここで盲児と正眼児における読みの発達の差の原因を考えてみよう。①触覚と視覚との違い，触覚は直接にさわらなければならない。しかも一字一字直接さわらなければならない。視覚は一度に数字が把握される。そうしたことが読みの速さに影響する。②点字は読書材料が少なく，学校の教科書以外に正眼児の雑誌，単行本，新聞参考書にあたるものがほとんどなく，読む機会が少ない。学習の機会の不足があげられよう。③小学校の1年においてとくに差が多くみられるのは，やはり盲児は小学1年に入学するまでのレディネスの不足のためであろう。入門期の指導に問題のあることも考えられよう。そのほか一応検査の前に盲精薄はのぞいてあるが，それが多少まじっていたのかもしれない。

【要約】

①一般的に学年が進むにつれて（ここでは小学部1年から盲学校に入学したものだけの結果であるから）点字学習期間も増すにつれて点字触読の速度は速くなる。

②小学1年から4年までの進歩は著るしく，小学4年以降，中学1年までの進歩はにぶる。中学1年から2年にかけて再び著るしく進歩を示す時期がある。中学2年から3年にかけ進歩を示さなかった。とくに触読能力が大きくのびる時期は小学3年と4年の間，中学1年と2年の間であった。

③小学1年，2年，3年と正確率は増して行くが，小学3年になると正確率は90%台になり，正確に読もうとする態度ができあがる。

④男女差は各学年ともみられない。この点は正眼児の場合と変らない。

⑤正眼児が普通の文字を読む速さと比較すると，盲児が点字を読む速さはかなりおそい。小学1年はいちじるしく遅い。小学3年以降，大体正眼児の3倍から4倍弱の時間がかかることになる。

【おわりに】

本研究報告は筆者の目的とする盲児の触読に関する研究の第1報である。触読能力の発達を中心にとらえてみたが，今後，触読に影響する要因，中途入学者の触読能力や点字の目読みの問題などつぎつぎと研究をまとめていくつもりである。

おわりに，この研究報告を作成するにあたり協力下さった全国各地の盲学校の先生方及び児童生徒の諸君，また結果の整理を手伝ってくれた方方に心から謝意を表する次第である。

注ならびに参考文献

1 Heller Th. "Studien zur Blinden-Psychologie" (Leipzig Wilhelm Engelmann) 1895
2 Maxfield K.E. "The Blind Child and his Reading" (New York. American Foundation For the Blind) 1928
3 草島時介 "点字の研究" 甲栄社 1937
4 Hayes S.P. "Contributions to a Psychology of Blindness" (New York. American Foundation for the Blind) 1941, P155
5 Caldwell F.F. "A Comparison of Blind and Seeing Children in Certain Educational Abilities" (New york. American Foundation for the Blind) 1932
6 Abel G.L. "The Educational Achievement of Fifth and Sixth Grade Blind Children" Teachers Forum <Blind> X, 1938, P109—111
7 佐藤泰正 "盲心理通論" 日本盲心理研究会 1964
8 佐藤泰正 "盲児の読書力について" 盲教育評論 22号 1953
9 佐藤光義 "盲児の点字触読に関する研究" 盲心論 vol2 1957
10 阪本一郎，佐藤泰正，村石昭三 "総合読書力診断検査" (小学校用，中学校用) 図書文化社
11 佐藤泰正 "読書速度と眼球運動" (教育心理実験講座3，国語，社会，家庭，外国語のうち) 牧書店 1956
12 佐藤泰正 "読書の心理" 日本文化科学社 昭28，P16—19
13 佐藤泰正他 "読書能力診断検査" 金子書房
14 佐藤泰正他 "低学年用読書能力診断検査" 金子書房
15 佐藤泰正 "速読術入門" オリオン社，1965

資　料

谷　口　仙三郎（大阪市立泉尾工業高等学校）

読書の影響ならびに人と社会に関する思考様相の分析（試論）*

(1) 工業高校の生徒は，卒業して社会に出てから社会的に孤立する者が多く，いわゆる技術者や職人に独特の型を作って，偏狭な判断が多く，未熟で幼稚な社会活動をしているのがよく見られる。クレペリン検査によると，上学年になるほど疑問型や異常型が増加する（とくに実習に習熟する者に多い）のを見ても，工業教育は人間形成の観点から必ずしも望ましい効果をあげていないように思われる。そこで読書課題の指導（一定の文学作品を熟読させ，その概要・書評・読後感をレポートとして提出させる）を1年間試み，生徒指導を改善する参考資料を得ようとした。

(2) 被実験者は大阪市立生野工業高校の機械科3年43名，同泉尾工業高校の化学機械科2年37名，3年35名で，昭和36年から40年にわたって実施した。これに伴なって多くのテストが行なわれたが，そのうち「人と社会に関する思考調査」の調査は次の10問よりなり，それぞれ5段階尺度法で，面接によって評定された。

A　親の世代との感覚，観念思想の違い，ならびに社会思潮の進歩の様相が判る。

B　前近代的社会における義理と人情の葛藤ならびにその社会制度の矛盾と悲劇の意味が判る。

C　活眼を開いて相手の人柄と気心を知り，権威と自由，道徳規範と責任の意味が弁別できる。

D　人情の機微，世人の厚意および人情の貴さが身に泌みて感ぜられる。

E　対人的な価値判断の様相を知り，打算や利害関係にある人達は比較的冷淡であることを知る。

F　他人の労苦や辛酸をよくかみわけて，生活経験によって社会活動の方法と手段を知る。

G　文化的背景と社会的変遷がその時代における個人の努力と貢献によって大きく支配されてきたことを知る。

H　文化の学問的価値体系が把握できて社会現象の進歩向上の母胎が何であるかを知る。

I　豊富な知識と高度の技倆を併有することが必ずしも貴いものであるとは限らない。世人が心服して慕い寄るような人柄をもつ人物であることが大切であることを知る。

J　地位身分の高い人必ずしも人格が高潔であるとは限らない。社会階層と人格の価値が一致しない。そしていろいろな実例から社会構造の矛盾を知り，現代の世相の趨勢が判る。

(3) 阪本標準読書力テストを前後に行なった結果では，1名を除いて全員得点が向上した。第1次テスト平均偏差値39.8，第2次48.2であった。

(4) 人と社会に関する思考調査の合計粗点から態度得点を算出したが，項目分析ではAのみ5％の有意差で，他はみな1％の有意差であった。態度得点と読書力との間のrは0.064で相互に関係がみられない。すなわち両者は無関係な精神機能とみなされる。

(5) 因子分析によって，上記の社会的態度には次の因子負荷量の類型があることが明らかになった。

第1因子　処世的才覚（A・C・E・H・I）

第2因子　経験的社会性の思考（D・G・J）

第3因子　実践生活の分別（B・F）

第4因子　道徳規範の批判（C・E）

第5因子　人格の意味の認識（G・I・J）

共通性（C・G・H・J）

(6) 代表的なケースを引用する。

1) 読書力が38点から53点に上ったH.K.は，笠「ものの見方について」，武者小路「友情」，森「山椒太夫」を読んだ。態度得点は35と低い。内向的で不安定な一面を持つが，安定している生徒である。

2) 読書力が比較的高いK.M.は，53点から63点に上った。樋口「作品集」，武者小路「友情」，島崎「嵐」を読んだ。態度得点は87と高い。温和で融合的な一面多少内向的な生徒である。

3) 読書力が低いN.Y.は24点から31点に上った。読んだのは石坂「若い川の流れ」，同「ある日わたしは」，森「青年」で，態度得点は100であった。多少社会と遊離した空想と夢をもつ生徒である。

(7) これらの生徒の follow up が計画されている。

(8) 差出がましいが，この態度スケールを指導前の診断に用いて，生徒の類型を明らかにし，その治療に役立つと思われる読書材料を課題し，その効果を評価するというふうに計画を運んではどうであろう。そうすれば読書療法の集団的な応用の領域が開拓されるであろう。〔阪本一郎〕

朝日新聞社

大学生と読書

(1) この調査の目的の一つは，現代の余暇志向時代の反映として大学生における読書の意味や比重が以前よりも変わってきているのではないかという点を明らかにすることである。調査対象は東京都内の大学から無作為に抽出された1,000人，（回収672人），昭和39年6月に面接による他記式質問紙法によって行なわれた。

(2) 読書量の自己評価――「私は学生として本を読まない方だ」と思っているものは全体の60%である。その理由は「忙しくて読む暇がない」32%，「本を読むのが嫌い」「読みたいと思う本がない」各8%，「その他」12%で，自分が読書家でないと思っている者も，大部分は読書の意欲がないわけではない。

この自己評価の傾向には，男女差はない。国立・私立別に見ると，「読む方だ」は国立大学の学生の53%，私立の学生の39%で，いずれも「好きだから」が最高の理由であるが，国立の方は「学生として勉強上必要だから」が同じ程度に多く，私立の方は「教養を高めたいから」が多く，差を見せている。

学部別にも差が見られる。多読の自負のもっとも高いのは理学部の60%で，次いで法学部，文学部の順で，もっとも低いのは経営学部の31%，その上が，経済学・芸術学・工学となっている。

学部別の理由の差もおもしろい。「読書が好き」という者のもっとも多いのは家政学部（24%）で文学部（20%）がこれに次ぐ。「勉強上必要」は理学部（18%）法学部（17%）に多く，「教養を高めたい」は理学部（23%）社会学部（21%）となっている。また少読者の理由の「読書が嫌い」は経営学部（19%）に，「忙しくて暇がない」はいずれも20%以上だが芸術学部（49%）が最高で，「本がない」は経済学部（19%）に多くなっている。

大学生の読書態度（%）（朝日新聞社資料による）

種別	全体	男子	女子	国立	私立	文学	芸術	法学	家政	理学	社会	工学	商学	経営	経済
読む方	**40**	40	40	**53**	39	**45**	36	**49**	41	**60**	37	36	43	31	35
読まない方	**60**	60	60	47	**61**	55	**64**	51	60	42	58	62	57	**69**	**64**
多読主義	**70**	69	**72**	62	**71**	69	63	63	**76**	54	55	74	73	**83**	**75**
精読主義	**28**	**29**	27	**34**	27	31	**36**	**38**	22	**36**	**38**	21	24	17	23
原典主義	**48**	42	**62**	**73**	44	**62**	52	**59**	**65**	45	46	34	35	34	31
解説書主義	**46**	**52**	30	25	**49**	34	48	39	28	32	38	**57**	**58**	53	**63**
原語主義	**58**	58	**63**	**69**	57	**67**	**73**	61	50	**68**	51	61	56	51	53
翻訳主義	**35**	**36**	30	25	**37**	28	15	37	**41**	23	**46**	35	37	**47**	**41**
目的読書観	**77**	74	**88**	**80**	77	**84**	82	74	**89**	73	63	**84**	74	64	66
手段読書観	**77**	76	**80**	77	77	78	79	**86**	**80**	73	71	73	75	**84**	72
思索読書観	**77**	75	**83**	62	**78**	**84**	73	**85**	**89**	68	63	78	79	70	73

(3) 多読主義か精読主義か――「読書を多くすれば目がこえてくるから，できるだけ多読すべきだ」という意見に賛成の者が70%，「数少なくても良書を読めば目がこえるから，古典などを精読すべきだ」に賛成の者が28%で，残りの2%が「わからない」と答えている。

現実に読書量の少ない者が多読主義に傾いている矛盾が見られた。

このような，本のよしあしを見わける見識を養う方法については，男女差は見られない。多読主義は国立大学（62%）よりも，私立大学（71%）の方がやや多い。学部別に多読主義のもっとも多いのは経営学部（83%）で，家政学部，経済学部，工学部，商学部がそれに次いでいる。逆に，精読主義の多いのは，法学・社会（各38%），理学，芸術の各学部となっている。

(4) 古典の読み方について――「古典は原典を読むべきだ」とする者が48%，「解説書でも正しく理解できる」という者が46%である。現実に読書量の少ない者が解説書主義に傾いており，読書量の多い者が原典主義に傾いている。少読者はてっとりばやい道を選ぶ傾向が多いようである。

これには男女差が見られる。男子学生は解説書主義の方が多く（52%），女子学生は原典主義が多い（62%）。学校の種別でも差が見られ，国立大学は原典主義が非常に多い(73%)が，私立大学は原典主義（44%）と解説書主義（49%）とがあい半ばしている。

学部別に見ると，原典主義の最高は家政学部（65%）で，次いで文学部，法学部，芸術学部などが多い。これに対して，解説書主義のいちばん多いのは経済学部（63%）で，商学部，工学部，経営学部などがこれに次いでいる。

(5) 外国の文学作品の読み方について――「原語で読まなければほんとうに鑑賞できない」という意見の者が58%，「飜訳で充分だ」という者が35%である。実際の読書量の多少による意見の相違は見られない。いずれも原語主義のほうが多い。

男子学生の原語主義は58%，女子学生のそれは63%で，大差はない。しかし国立大学生の原語主義は69%，私立大学生のそれは57%で，国立大学生の方がいくぶん多くなっている。

学部別に見ると，どの学部も過半数は原語主義者であるが，とくにそれの多いのは芸術学部の73%で，次いで理学部，文学部となっている。これに反して原語主義者の少ないのは家政学部，社会学部，経営学部で，これらにおいては飜訳主義者と伯仲している。

(6) 読書観――「読書は楽しい」と目的的読書観に立つ者は77%，「読書は問題解決の手がかり」という手段的読書観の者が77%，「読書は人間形成に役立つ」という思索的読書観の者が77%で，大部分の大学生は，読書の価値をいずれの面からも積極的に肯定している。実際の読書量との関連を見ると，目的的読書観の者は多読者に多いが，他の二つの立場のものは読書量の多少と関係がない。つまり多読者は明らかに読書の楽しさに引かれているのである。

女子学生には，目的的読書観と思索的読書観とがやや多く，手段的読書観はほぼ等しい。国立と私立とを比べると，目的的読書観と，手段的読書観とには差が見られず，思索的読書観だけは私立大学生の方に多いようである。

学部別では，目的的読書観の高率なのは家政学部（89%），工学部，文学部，芸術学部の順で，最低は社会学部(63%)と経営学部である。また手段的読書観は，法学部（86%）の最高に次いで経営学部,家政学部の順で,最低はここでも社会学部(71%)と経済学部である。さらに思索的読書観は，これも家政学部(89%)が最高で，法学部，文学部の順で，最低はやはり社会学部(63%)と理学部となっている。これを総括すると，家政学部・法学部・文学部の学生は，読書の価値をさまざまな側面から積極的に評価しているが，反対に社会学部の学生は，これをすべての面で疑っている姿勢が見られる。

以上を横断的にまとめて見る。

(7) 男女差――男女差のもっとも大きいのは，古典の読み方で，女子は原典主義が，男子は解説書主義が多い。外国文学の読み方もそれに関連して，女子は原語主義に，男子はやや翻訳主義に傾いている。しかも女子学生は読書が好きであり，目的的読書観を持つ者が多い。読書による人格形成を多く考えている。その他には男女差はほとんどない。かくて読書生活に安易な線を求める傾向は，男子の方に多くあらわれていると言えよう。

(8) 学校種別差――国立大学と私立大学とに分けると，いちばん差の大きいのはやはり古典の読み方で，国立は原典主義を支持し，私立はやや解説書主義に傾いている。外国文学の読み方も国立は原語主義の支持が高く，私立には翻訳主義がわりに多い。また国立には読書家を自負する者が高率で，どちらも多読主義が多いけれども，国立には精読主義が相対的に多い。ただし読書観では，人間造りの立場が国立ではいちじるしく少く，どちらかというと読書の楽しみを重視してい

る。かくて私立大学のほうが安易な線に向かっていると言えよう。

(9) 学部差――原典主義と原語主義とをともに強調するのは文学部と法学部とである。どちらも読書家が多い方であるが，文学部は多読主義で，読書を楽しむ者が多いのに対して，法学部は精読主義の支持が多く，手段的読書観が高率になっている差がある。

原典主義の方だけを支持するのは家政学部で，原語主義を強調しないのは語学に弱いからであろうか。多読主義ではあるが，読書家としての自負は低い。しかし読書観はもっとも多面的である。

原語主義の方だけを強く支持するのは，芸術学部と理学部とである。芸術学部は古典の読み方については態度がはっきりしないが，精読主義が多い方で，読書観では楽しみの立場をとる傾向がある。しかし自分では読まない方と言っている。理学部も古典に対する態度は不分明で，精読主義であることも同じだが，みずから多読であるとの自己評価は抜群である。しかし読書観は一般に低調である。

さて，古典は解説書でよいとし，外国文学でも原語主義を強く支持しないのは商学部と工学部とである。ともに少読と自己評価をする方で，精読主義が少ない。読書観は特徴がなく，ただ工学部は楽しみを強調する傾向がある。

また，外国文学は翻訳でよいとし，古典でも原典主義を強く支持しないのは経営学部と社会学部である。社会学部は精読主義がわりに多いが，読書観はおしなべて低調であってもっとも消極的である。経営学部は，多読主義の支持は最高だが，少読の自己評価も最高で，読書は問題解決の手段と見ている。

最後に，解説書主義と翻訳主義との両方の支持率の高いのは経済学部で，多読主義だが少読と意識していることは経営学部に似ている。ただし読書観の低調なことは，社会学部に次いで消極的である。

以上のようで，原典主義・原語主義の支持率の総合的に低いものから並べると，経済学部，経営学部，商学部，工学部，社会学部の順となり，上位に実業関係の専攻学部が並んでいるのが注目される。これらは一般に読書観が低く，少読者と自認している。

これに反して原典・原語主義の総合支持率の高い方から並べると，文学部，芸術学部，法学部，家政学部，理学部の順となり，広義の芸術関係の専攻学部が上位にいる。これらには，多読を自負するもの，読書観の多面的で積極的なものが多くなっている。

(10) 以上を総合すると，むかしの大学生の読書態度のたてまえ論からずれて来ているのは，女子学生よりも男子学生であり，国立大学生よりも私立大学生であり，専攻学部は実業関係のものに多いと結論できそうである。〔(7)以下は筆者の私見〕（阪本一郎）

――大学生と読書調査，問題別シリーズ No.4，1965年12月，非売品。

全国学校図書館協議会
児童・生徒の読書の実態

(1) この調査はＪＳＬＡが毎日新聞社の委託で毎年実施しているもの。ここに収録する資料は昭和40年６月に実施した全国調査で，小学校（４年以上）46校，中学校42校，高等学校48校にわたるものである。

(2) 読んだ本の量――５月１か月の間に読んだ本（教科書・自習書・雑誌やその付録・マンガを除く）の冊数は，一人当たり平均，小学生4.1冊，中学生2.6冊，高校生2.2冊で，全体の約半数は１～３冊を読んでいる。全体として女子のほうが多く読んでいるのは例年と同じ。例年と違うのは，市街地域の読書量が減って，非市街地域とほぼ同じになったことである。

(3) 読んだマンガの量――１か月間に読んだマンガの冊数は，小学４年男7.6冊，女5.2冊，５年男6.9冊，女5.0冊，６年男7.3冊，女5.9冊で，５年に陥没が出たのと，全般に昨年よりも少し減少したことが注目される。しかし１昨年より減ったとは言われないし，この６か月間に読んだ本の種類

をあげさせた回答には，小学生の82%，中学生の74%，高校生の43%がマンガを読んでいるとなっているから，マンガ熱が下火になったとは速断できない。男子は女子よりも多いことは例年どおり。

(4) 読書をしない理由——(2)の問に対して1冊も読まなかったという者は，小学生10%，中学生27%，高校生29%で，高校生では全学年を通じて男子の40%，女子の20%がまったく読んでいない。工業科の1・3年では半数が読んでいない。この読まなかった者の理由は表1のようである，

表1　本を読まない理由（%）

理由		小		中		高	
		男	女	男	女	男	女
読書がきらい		30	23	41	27	34	20
時間がない	遊びで	36	26	16	6	19	9
	テレビで	26	25	15	11	18	19
	勉強で	6	13	8	9	9	13
	塾どなで	6	13	8	9	9	13
	手伝で	5	15	9	26	5	15
あたりがやかましい		7	8	5	8	3	3
家人が禁ずる		3	2	1	1	1	1

「読書がきらい」という者が最高で，これは男子のほうが多い。「勉強」と「おけいこや塾」とを合わせて「学習」とすると，これが第2位で，女子のほうが多い。第3位が「テレビ」で，これは男女差がない。次が「遊び」で，男子に多い。「手伝」は女子に多い。すると，男子は，①きらい，②遊び，③テレビが，女子は，①きらい，②学習，③手伝またはテレビが，読まない理由の3傑とされよう。

(5) 読まれた本——小学生は伝記・世界名作，中学生は日本文学，高校生は世界文学という読書傾向の大勢は今年も変化はない。ただしオリンピック関係のものと，歴史のものとが進出した。

小学生では，①文学全集，②日本の歴史，③わたしたちの地理，④日本の名作などがよく読まれ，⑤テレビの影響がいちじるしい。

中学生では，①日本の古典，②「愛と死を見つめて」，③太平洋戦争もの，④「キューポラのある街」，⑤オリンピックのものが多く読まれた。

高校生では，①「007シリーズ」，②ベトナム戦争，③日本の歴史などが読まれた。

(6) 読書の動機——実際に読んだ本についての動機の第1位は，小中高を通じて「書名の魅力」（35%）となっている。次は，「昔から有名な本だから」（19%）ということで，知名度の高いことが読書欲をそそるようである。

他人からすすめられたという者のうち，小学生は「家の人」がもっとも多い（19%）が，年長になるにつれて「友だち」がふえ，高校生では21%になる。この傾向はとくに女子にいちじるしい。「先生」は9%で少ない。

なおマスコミの影響が目立つ。「テレビ・ラジオ・映画でやっていたから」（11%）など，昨年よりも伸びている。

(7) 本の入手経路——読んだ本の入手経路は表2のようである。

表2　読んだ本の入手経路（%）

経路	小	中	高
自分で買った	20	24	42
家人が買った	43	17	9
友人に借りた	22	19	31
家にあった	21	22	22
人にもらった	13	7	3
学校図書館	57	61	32
公共図書館	3	3	4
貸本屋	7	3	2
その他	4	3	2

小・中学生では学校図書館が最高であるが，これは昨年より約2割増となる。しかし高校生では「自分で買った」がもっとも多い。「家人に買ってもらった」は小学生に多いが，年長では減ずる。「家にあった」という accessibility はどの段階でも強いようだ。「友だち」もよいルートだが，高校生の男子は自分で買う傾向が多いのに，女子はもっぱら友人に借りる傾向が多い。

(8) 読まれている雑誌——ふだん読んでいる雑誌・週刊誌は1人当たり平均小学生3.7冊，中学生2.4冊，高校生2.3冊で，買うのと借りるのとが半々である。ただし小学生は借りるほうが多く，中・高校生は買うほうが多い。本年の特徴は，①「少年サンデー」等の少年週刊誌が大きく伸びて，高校生にも読みつがれるようになったこと，②学習雑誌が大きく伸びたこと，③「平凡」「明星」が月刊・週刊ともに中学生以上に浸透したこと，④昨年創刊した「平凡パンチ」が高校生男子に愛読されていることなどである。

(9) 読書の時間——平日の生活時間を①学習時間，②自由読書時間，③ラジオ・テレビ視聴時間，④手伝の時間，⑤遊

び・スポーツの時間について調べた結果は，いちばん長いのはラジオ・テレビの視聴時間であって，小中高校とも1～2時間が最高である。

表3　読書（雑誌・新聞を含む）時間（%）

	小		中		高	
0分	16		12		11	
～15分	34	77	37	80	28	80
～30分	30		30		33	
～1時間	13		13		19	
～2時間	4		5		6	
～3時間	1		1		2	
3時間～	1		1		1	
不答	3		3		3	

読書時間は表3のように15分～1時間というところが大部分で，全然読書をしない者が1割以上いる。15分ぐらいでは，マンガを読むのがせいぜいであろう。高校ではやや時間が長くなるが，しかし「0分」という回答が勉強に10%，遊び・スポーツに24%，手伝に33%となっているのを見ると，何もしないでラジオ・テレビにかじりついている者があるらしい。

筆者が級間の中間数をとって，それぞれの平均時間を算出したら，次のようになった。

表4　児童生徒の生活時間（分）

	小	中	高
読　書	23	24	28
ラジオ・テレビ	76	74	72
家庭学習	52	77	92
遊び・スポーツ	69	67	50
手伝い・お使い	23	27	24

(10)　読書の魅力――表5に掲げてある8種の活動を2つずつ組合わせて，どちらが好きかを選ばせることによって，各活動の興味の比重を算出している。これを筆者が順位化したものが表5である。これを見ると，本を読むことは，ラジオや手伝よりもましという程度で，マンガや雑誌を読むことさえ，遊び外出，テレビや映画よりも下位になっている。高校生ではラジオよりも下位になっていて，全般にいかに読書の魅力が低下しているかが知られる。ただし女子は男子よりもすこし読書を選ぶ傾きが見られる。

(11)　本の魅力――1万円程度の品物を15種並べて，そのなかでいちばんほしい物を選ばせることによって，物の要求度を

表5　諸活動の魅力（順位）

活　動	小			中			高		
	男	女	全	男	女	全	男	女	全
遊　ぶ	4	1	**1**	1	1	**1**	1	2	**1**
テレビを見る	2	3	**3**	2	2	**2**	2	1	**2**
映画を見る	3	4	**4**	3	3	**3**	3	3	**3**
外出する	1	2	**2**	4	6	**4**	4	4	**4**
マンガ・雑誌	5	6	**5**	5	4	**5**	6	7	**6**
本を読む	6	5	**6**	6	5	**6**	7	6	**7**
ラジオを聞く	8	8	**8**	7	7	**7**	5	5	**5**
手伝やお使い	7	7	**7**	8	8	**8**	8	8	**8**

調査している。%によって報告されているが，表6では見やすくするために品物を10種に減じて順位化して見た。

表6　品物の魅力（順位）

品　物	小			中			高		
	男	女	全	男	女	全	男	女	全
テープレコーダー	4	1	**2**	1	1	**1**	1	1	**1**
カメラ	3	5	**3**	2	2	**2**	3	3	**4**
自転車	2	2	**1**	3	5	**3**	8	9	**8**
文学全集一揃	7	3	**5**	9	3	**6**	4	2	**2**
ギター	6	7	**7**	4	6	**5**	2	5	**3**
プレーヤー	8	8	**9**	6	4	**4**	5	4	**5**
百科事典一組	5	4	**6**	7	7	**7**	6	6	**6**
鉄道模型セット	1	9	**4**	5	10	**7**	9	10	**10**
トランジスター	10	10	**10**	8	9	**10**	6	8	**7**
スケート靴	8	6	**8**	9	8	**9**	10	7	**9**

このような調査では，介在因子がたくさんあるし，年齢・性別などによっても大きな差が出るのは当然であろう。ところで，「文学全集」への要求度は小・中学で中位ぐらいであるが，高校になると高くなり，それも女子において強いことが知られる。「百科事典」は小中高を通じて中位であまり強く要求されていないが，これには男女差がない。表5で見たように，読書活動への魅力は上級学校になっても上昇していないのに，本だけは買っておこうというところが何かを風刺しているようである。　〔阪本一郎〕

――学校図書館速報版，昭和40.11.5～12.5及び毎日新聞社，花ざかり子供週刊誌，昭和40年12月，非売。

出版科学研究所

週刊誌はどのように買われているか

(1) 成人の購読率――これは16歳～60歳の成人1,881名についての調査である。このうち1か月間に週刊誌を1冊でも買った人は40%で，定期購読者はその半分の20%である。

1人当り1か月間に種類で0.6点，冊数で1.5冊となる。しかし買った人だけで冊数を見ると3.9冊である。これは同じものを定期的に購読している人が多いことによるようである。

(2) 購読率の変数――①性別に見ると，男の45%に対して女は34%で，男のほうが高い。②年齢別に見ると，表1のようで，学校を出てから結婚までの独身時代がもっとも厚い購読者層だといえよう。なお30代後半が第2のピークで，定期購読率はここが最高になっている。それ以後は漸減している。③職業別に，高いものから並べると，管理職・自由業(50%)事務・販売職（47%）技術職（46%）労務職（46%），ここで一段落ちて商店・工場主（40%），主婦（32%），学生（28%），無職（25%）の順になっている。④未婚者は，43%，既婚者は39%と開いている。⑤学歴別では，小・中学校卒が35%，旧中・高校卒が38%，旧専・大学卒が52%と，学歴が長い者ほど購読率が高い。

表1　年齢別購読状況

歳	購読率	定期購読率	1人当り点数	1人当り冊数
16～19	34	13	0.5	1.1
20～24	48	19	0.7	1.7
25～29	44	21	0.6	1.6
30～34	39	23	0.6	1.7
35～39	43	24	0.7	2.0
40～49	39	20	0.6	1.6
50～59	30	17	0.4	1.1

(3) 買われた週刊誌の種別――これは表2のようである。

ここで「大衆Ⅰ」とは，週刊平凡・週刊明星・平凡パンチなど，「大衆Ⅱ」とは，週刊朝日芸能・週刊実話・漫画サンデーなど，また「総合Ⅰ」とは新聞社発行のもの，「総合Ⅱ」とは出版社系のものである。さてもっとも多く買われているのは「総合」であり，「婦人」・「大衆Ⅰ」がこれに次いでいるが，他はいずれも5%以下という実情である。

表2　買われた比率

	全体	男	女
児童	0.9	1.0	0.7
婦人	18.0	1.2	43.1
大衆Ⅰ	14.2	15.9	11.8
大衆Ⅱ	4.3	5.9	1.8
総合Ⅰ	32.7	40.7	20.7
総合Ⅱ	25.0	28.0	20.4
スポーツ	1.1	1.8	—
経済	2.3	3.7	0.2
その他	1.6	1.8	1.3
計	100.0	100.0	100.0

(4) 種別購読率の変数――①男女別にすると，男は「総合Ⅰ」に集中し，女は「婦人」に集中している。総体として男は女よりも，買う週刊誌のジャンルが広いという。②年齢別に見ると，20代の前半までは「大衆Ⅰ」と「婦人」が上位を占めているが，後半になると「総合Ⅰ・Ⅱ」が上位になる。おもしろいのは「児童」がハイティーンにわりによく買われていること（7%）である。

③職業別にすると，「総合Ⅰ」は労務職・主婦・無職以外のどの職業でも高率であるが，とくに技術職では5割に及んでいる。「総合Ⅱ」は第2位であるが，労務職・主婦・学生は少ない。あとは職業による片寄りが大きい。④既婚者・未婚者ともに「総合Ⅰ」がトップだが，2位は未婚者は，「大衆Ⅰ」，既婚者は「総合Ⅱ」である。

⑤学歴別にみると，小・中学校卒は「大衆Ⅰ」と「婦人」とで5割以上を占める。旧中・高校卒は「総合Ⅰ・Ⅱ」に次いで「婦人」が来るが，旧専・大学卒では第3位に「経済」が来ている。

――Readership Survey No. 2, 200円

会　報

常任理事会（9月24日）

1. 本会事務局の移転――10月1日から日本女子大学家政学部阪本研究室内へ移転する。同大学当局の承認を得た。
2. 機関誌の発行所の変更――本会の創立以来，牧書店を発行所としてきたが，同社の同意を得たので，No. 32から学会自体が発行者となる。
3. 研究協力――東販出版科学研究所が例年の読書世論調査を実施するので，これに協力する。
4. 年報編集企画――執筆分担者を決定，依頼するように運ぶ。
5. 教育課程に読書指導を位置付けることの研究――このことは提案者の深川恒喜氏に運営を依頼する。

事務局移転（10月1日）

予定どおり，移転を完了した。新しい所番地は，東京都文京区高田豊川町18　日本女子大学家政学部阪本研究室内
電話　943―3131（内線226）

創立以来おせわになった東京教育大学，及び研究室の使用を提供された平沢教授にあつくお礼を申しあげる。

常任理事会（10月25日）

1. 小中高等学校の読書指導を強化するための基礎的研究の促進――深川氏の提案にもとずいて，(a)第10特別研究委員会を設置すること，(b)研究内容についてはその委員会で具体的に検討すること，(c)研究の成果に基いて学習指導要領の改訂に対する改善意見をまとめ，文部省等に提出することを可決。
2. 機関誌――1964年年報として編集していたNo. 30は予定通り原稿が揃わないため，不備ではあるが年内に発行する。No. 32も同時に発行する。1965年年報とするNo. 34の執筆依頼は完了した。
3. 研究助成の希望者の推薦――11月末〆切として，理事各位にあっせんを依頼する。

常任理事会（11月29日）

1. 読書指導研究特別委員会――総会で可決されたこの会は，本会の第10特別委員会として年内に発足することとし，深川恒喜氏が委員長を引受けた。初めの予想と違い，1966年の中頃までに最初の結論を出す必要があることを確認した。
2. 機関誌――No. 30及びNo. 32は校了になっているが，刷り上りがおくれている。

読書指導研究特別委員会（12月18日）

明年早々に発足するため，会の目的，事業，委員依嘱などについて設立準備の諸事項を相談した。

常任理事会（1月10日）

1. 総合研究計画――今回は主題を「読書能力の開発に関する基礎的研究」とし，(a)児童生徒の読書能力の発達の規準の設定及びその因子分析・要因分析など，(b)読書困難児の治療的指導の実験など，(c)成熟者の読書能力の実態調査とその開発改善の実験などを中心とする3部会により研究を進めることにし，文部省に研究費を申請する，
2. 機関誌――No. 33は10日に原稿を〆切り，編集の上1月中に印刷に回す。No. 34は本年度の予算では出せないので，4月以後に延ばす。
3. 標準読み物研究特別委員会――標準読み物の選定を大体終了した。印刷発表までにあと数か月を要する。
4. 読書療法研究特別委員会――このことを普及するために手引書を作製することになり，目下執筆の段階にある。明治図書KKと7月に発行の契約をした。
5. 研究費補助――〆切日までに申出がないため，本年度は中止する。

Vol. 9, No. 3 February, 1966

昭和四十一年二月二十八日発行（年四回発行）

THE SCIENCE OF READING

Edited by The Japanese Society for the Science of Reading
President : Sakamoto, Ichiro
c/o Department of Child Study, Japan Women's University, Japan.

CONTENTS

Original Articles

Growth of library as the field of reading to support Japanese education
SHIMIZU, Masao 1

A study of bibliotherapy on the delinquent (3rd report)
OOKAMI, Sadao 3

How are children reading recent comics ? (II)
SAKAMOTO, Ichiro 15

Relation between high school students' reading and settling their view of life.
KIMURA, Noriko 22

How do children understand stories ?
WATANABE, Masami 29

An attempt of reading guidance by the group
TERAMOTO, Toshimi 33

Developmental study on Braille reading of blind children
SATO, Yasumasa 39

Materials 48

Official Notes 55

第9巻 第3号
<通巻 第33号>
昭和41年2月20日 印刷
昭和41年2月28日 発行

会員頒布（頒価 300円）

東京都文京区高田豊川町18
日本女子大学家政学部阪本研究室内
振替東京3213番

編集・発行者 日本読書学会
代表 阪本一郎

発行所 日本読書学会

印刷・第一印刷株式会社